

医 と 社 会 IV

責任者	氏 名	安武 亨	内 線	7987
	教 室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	4年・通年（前期・後期）	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	Medicine and Society		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

がん患者などのターミナルケアなどの医療場面では、たびたび対応が難しい場面に遭遇する。このような状況でのがん患者などへのインフォームドコンセントの取り方及び患者や家族の心の葛藤及びケアについて学ぶ。大学病院及び地域医療におけるターミナルケアの現状及び取り組みについても学ぶ。また、コア・カリキュラムにもあげられているリスクマネジメント、医療事故及び医療法制、死生学を取り上げる。臨床の現場では、医療事故を如何に防止するかについて安全管理に関する心構えを身に付けかつ倫理面を認識した上での医事法制を学ぶ。また、前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深める。

2. 授業内容（講義・実習項目）

がん患者やその家族の心の葛藤及びケアについて学ぶとともに、医師としてのがん患者やターミナルケアにおける実際の接し方を教授する。また大学病院及び地域医療でターミナルケアがどのように実践されているかを講義する。その他ターミナルケアが必要ながん患者へのインフォームドコンセントの行い方を模擬患者を使って経験する。

また、医療マネジメント、医療事故に関し具体例をあげ、医療リスクマネジメントの実際を学ぶ。さらに医師にとって重要である医療情報のITとその安全管理や医事法制についても法律の専門家による講義を予定する。医師にとって必要な法的側面及び倫理観、宗教観からみた死生学について講義する。また、地域包括ケアシステムの理解を深めるため、地域包括支援センターや訪問看護の役割等について講義を行う。多職種連携症例検討も行う。

3. 教科書、参考書等

特に指定しない。医療マネジメント、医事法制などの出版物は少なくない。
必要に応じて各講義で紹介する。

4. 成績評価の方法・基準

レポート、出欠状況及び授業を行った教員の評価結果を総合して決定する。講義・実習には全て出席すること。講義を欠席した学生には別途課題を課します。

5. 教員名

先端医育センター：安武亨、田中邦彦、分部哲秋、桑原宏永、江川亜希子

麻酔科：北條 美能留

細胞療法部：長井 一浩

救命救急センター：山下 和範

保健学科：大西 眞由美

歯学部：藤原 卓

非常勤：江崎 宏典（長崎医療センター院長）

非常勤：児島 達美（長崎純心大学人文学部教授）

非常勤：永田 耕司（活水女子大学教授）

非常勤：浅野 直人（福岡大学法学部長）

非常勤：福田 浩久（弁護士）

非常勤：早島 理（滋賀医科大学名誉教授、哲学倫理学）

非常勤：江田 佳子（佐々町保健師）

地域包括ケア教育センター：永田康浩、久芳さやか、石居公之、相良郁子、
牟田久美子、松坂雄亮、濱口由子

H27年度4年生(前期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	3	金	2	(がん) 患者とのコミュニケーション	非常勤・永田	第4
4	10	金	2	医療リスクマネジメント (保健学科と共修)	非常勤・江崎	第4
4	17	金	2	大学病院における緩和ケア (保健学科と共修)	麻酔科・北條	第4
4	24	金	2	災害医療	救命センター・山下	第4
5	1	金	2	がん患者と家族	非常勤・児島	第4
5	8	金	2	法社会と医療	非常勤・福田	ボードイン
5	15	金	2	死生学	非常勤・早島	記念講堂
5	22	金	2	医事法制	非常勤・浅野	ボードイン
5	29	金	2	医療安全1 医療のクオリティマネジメントと安全管理	歯学部・藤原	第4
6	5	金	2	途上国における国際保健	保健学科・大西	第4
6	12	金	2	地域包括ケアシステムと多職種連携Ⅰ	先端医育センター、 地域医療学、地域包 括ケア教育センター	第4
7	2	木	3	地域包括ケアに向けた佐々町の取り組み	非常勤・江田 地域医療学	第4
			4	医療安全2 医療の質と安全の確保	細胞療法部・長井	第4
7	9	木	3	地域包括ケアシステムと多職種連携Ⅱ	先端医育センター、 地域医療学、地域包 括ケア教育センター	第1
			4			第1

医と社会授業予定(4年後期) 医歯薬共修

10	19	月	5	多職種連携症例検討(1)	先端医育センター、 地域包括ケア教育セ ンター	第3、4
10	26	月	5	多職種連携症例検討(2)	先端医育センター、 地域包括ケア教育セ ンター	第3、4

人 体 構 造 系 III

責任者	氏 名	弦 本 敏 行	内 線	7021
	教 室	肉眼解剖学（解剖学第二）	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:00-19:00		

対象年次・学期	4 年・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Human Body Structure 3		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：人体の構造に関する知識は、すべての臨床科目の理解・習得において必須のものである。人体構造系ⅠおよびⅡにおいては人体解剖学に関する基礎的知識を習得した。人体構造系Ⅲのねらいは、次の3点である。（1）臨床科目を学習した上で、解剖学に関する知識を再確認するとともに、各臓器における様々な病態・疾患の解剖学的背景を理解すること（2）各臓器の3次元構造およびそれら相互の位置関係を理解し、各種画像診断のための臨床解剖学的知識を習得すること（3）実習対象のご遺体は例外なく、死に至るまでに多くの疾病に罹患し、また様々な治療を施されている。そのような実態を自らの目で再確認し、疾患に関する理解を深めること。

到達目標：人体構造のうち内臓器をはじめとする諸構造を理解し、それらの臨床解剖学的意義を説明できること。

2. 授業内容

胸部・腹部・骨盤・頸部等の内臓器を中心に、決められた手技に則って解剖学実習を行う。

3. 教科書、参考書等（★は教科書、必携）

書 名	著 者	出版社	定価(税抜)
★グラント解剖学実習	新井良八 監訳	西村書店	4,800 円
★ネッター解剖学アトラス	相磯貞和 訳	南江堂	10,000 円
★グレイ解剖学 (for students)	塩田浩平 他訳	エルゼビア・ジャパン	10,000 円
臨床のための解剖学	佐藤達夫・坂井建雄 監訳	MEDSi	14,000 円

4. 成績評価の方法・基準

解剖学実習について、筆答試験を行う

(1) 受験資格 原則として皆出席（無届欠席は失格）

(2) 試験と評価 本試験と再試験

※ 本試験、再試験とも無届欠席は失格とする。

5. 教員名

肉眼解剖学分野：弦本敏行、岡本圭史、分部哲秋、佐伯和信

6. 備考（解剖学実習事前学習等について）

シラバスを参考に、胸部・腹部・骨盤・頸部等の各臓器に関する解剖学的知識を再確認しておくこと。

人体構造系Ⅲ授業予定（4年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
5	7	木	3 4	内臓系解剖実習 1	オリエンテーション 胸郭・腹腔の開放、胸膜、腹膜、自然位の腹部内臓	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	解剖 実習室
5	14	木	3 4	内臓系解剖実習 2	胸膜、肺、縦隔①、心臓①	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	解剖 実習室
5	21	木	3 4	内臓系解剖実習 3	縦隔②、心臓②、小腸・大腸①	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	解剖 実習室
5	28	木	3 4	内臓系解剖実習 4	上腹部臓器①	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	解剖 実習室
6	4	木	3 4	内臓系解剖実習 5	上腹部臓器②、小腸・大腸② 後腹膜臓器	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	解剖 実習室
6	11	木	3 4	内臓系解剖実習 6	腰部離断、(骨盤折半) 骨盤内臓	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	解剖 実習室
6	18	木	3 4	内臓系解剖実習 7	骨盤の血管・神経	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	解剖 実習室
6	25	木	3 4	内臓系解剖実習 8	咽頭・喉頭 総復習	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	解剖 実習室

薬 理 系

責任者	氏 名	有賀 純	内 線	7043
	教 室	医科薬理学	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日17:00 - 18:30		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Medical Pharmacology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：薬理学は薬と生体の相互作用について研究する科学である。薬理学は疾患の治療体系の構築に密接に関わると同時に、解剖学、生理学、生化学、化学、情報科学などさまざまな周辺科学の進展に支えられ、貢献してきた。したがって、薬理学の講義・実習においては、薬についての知識を既習の臨床・基礎医学についての知識・経験に関連づけ、柔軟に応用が可能な知識体系を各自が構築することが求められる。講義においては、自ら問題点を見だし、解決していく能力を養うことを重視する。新薬の利害得失を勘案し、安全で最適な薬物療法を考える能力をもつ医師や研究者の育成を目的とする。

到達目標：生体と薬物の相互作用について系統的に説明できる。

薬物の起源と性質、薬物開発の戦略について説明できる。

適切に取り扱いのもとに動物実験を行い、結果を評価することができる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

薬理学総論、及び臓器機能別薬物の作用機序並びに各病態における薬物応用理論、さらに医薬品創薬について講ずる。一部項目については実習を課す。

3. 教科書・参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (12 th Ed)	編者：L. L. Brunton	McGraw-Hill	20,385円
NEW 薬理学（第6版）	編者：田中千賀子、加藤隆一	南江堂	9,240円
病態生理に基づく臨床薬理学	編者：D. E. Golan 日本語版監修：清野 裕	メディカルサイエンス	12,600円

4. 成績評価の方法・基準

試験は筆答形式で行い、実習レポート、課題レポート、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。薬理学実習は、薬理学筆答試験受験のために必修である。実習を行い、実習レポートをすべて提出し、受理された者のみが、薬理学筆答試験を受験する資格を有する。

5. 教員名

医科薬理学：有賀純、中川慎介

6. 備考（準備学習等）

教科書・参考書などで予習し、かつ適応となる疾患の理解をしておくこと。

実習前には、配布される実習テキストを読んで予習しておくこと。

薬理系授業予定（4年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	7	火	3	中枢神経薬理学1	抗てんかん薬・抗不安薬	薬理・中川	3 講
			4	中枢神経薬理学2	抗パーキンソン病薬・抗認知症薬	薬理・中川	
4	14	火	3	中枢神経薬理学3	抗精神病薬	薬理・有賀	3 講
			4	中枢神経薬理学1	抗うつ薬・気分安定薬	薬理・有賀	

病 理 各 論 系

責任者	氏 名	福岡 順也	内 線	7055
	教 室	病理診断科学 (病理二)	e-mail	fukuokaj@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00AM-17:00PM		

対象年次・学期	4 年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	4
英語名	Organ Pathology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

病理診断は、臨床において疾患の最終診断を決定する、重要な診断部門を担う。病理総論では、生体の基本的な防御機構や反応、及び組織の病変形成機序について学んだ。病理各論では、臨床に則した代表的疾患における病理診断のポイント、鑑別疾患について学ぶ。具体的な疾患の病理組織変化を自らの目で確かめ、代表疾患の病理診断を行う事が出来、各疾患の持つ特徴的病変が臨床へどのように反映されるかを学び、更に治療の効果やその影響を理解する上で重要な病理学的知識を習得する。運動器および皮膚科領域の総合的理解を深めるように時間割りが組まれている。

2. 授業内容（講義・実習項目）

[病理各論 I] 4 年前期に第二病理で、以下の各項目の講義および実習を行う。

講義項目：運動器および皮膚の腫瘍および非腫瘍病変の病理診断。

3. 教科書、参考書等

特に指定教科書はないが、掲げた教科書以外にも良書は多い。英語の優れたテキストも多く、読みやすいものを選ぶとよい。

テキストブック

	書 名	著 者	出 版 社	定 価
原著	新病理学各論	菊池浩吉、他	南山堂	12,600円
原著	Pathologic Basis of Disease	Cotran, R. S. 他	W. B. Saunders Co	12,285円
訳本	ロビンス基礎病理学	Kumar, V. 他 (森亘、桶田理喜 監訳)	廣川書店	18,900円
訳本	カラー版アンダーウッド病理学	Underwood, J. C. E. (鈴木利光、森道夫 監訳)	西村書店	7,875円
訳本	人体病理学	Stevens, A. & Lowe, J. (石倉 浩 監訳)	南江堂	9,450円
訳本	ルービンカラー基本病理学	Ruben, E. (河原栄、横井豊治 監訳)	西村書店	6,510円

アトラス

	書 名	著 者	出 版 社	定 価
原著	病理組織の見方と鑑別診断 カラーアトラス	赤木忠厚 他	医歯薬出版	13,650円
原著	組織病理アトラス	藍沢茂雄 他 (編集)	文光堂	12,600円
訳本	カラーアトラス 基礎組織病理学	Stevens, A. 他 (今井大、山川光徳 監訳)	西村書店	7,140円
訳本	アンダーソン 病理学カラーアトラス	Damjanov, I. & Linder, J. (山口和克 翻訳)	メディカル サイエンス インターナショナル	12,600円

4. 成績評価の方法・基準

前期末講義終了後に試験を行う。

試験問題、解答は基本的に英語で実施。試験点に加え、出席状況とレポートの内容を加味して評価する。各領域ともに6割以上を合格点とする。

5. 教員名

病理診断科学（病理2）：福岡順也、新野大介、二反田隆夫

6. 備考（準備学習等）

病理総論で学んだ事項を十分に理解しておくこと。各論では、すべての疾患を網羅した講義は行わない。ただし、試験は講義で網羅していない範囲からも出題する。講義スライド、試験問題および解答は基本的に英語を用いる。

病理各論系授業予定（４年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	6	月	1	病理診断学	運動系・骨軟部腫瘍（講義・実習）	福岡	情処
			2		運動系・骨軟部腫瘍（講義・実習）		
4	13	月	1	病理診断学	皮膚腫瘍（講義・実習）	福岡	情処
			2		皮膚非腫瘍（講義・実習）		

精 神 系

責任者	氏 名	小 澤 寛 樹	内 線	7293
	教 室	精神神経学（精神神経科学）	e-mail	ozawa07@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日・12:00-13:00		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Neuropsychiatry		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：精神と行動の障害として表現される精神疾患の症候、病態生理、成因とそれに対応する治療とケアについて理解する。精神疾患（精神障害）を、分子レベルから、神経系・内分泌系・免疫系・循環系が交錯する脳、個体、家族、社会、文化、倫理などの多次元の病理が個人の精神と行動の障害として現れたものとして理解し説明するために自主性を持って学習する。さらに、精神疾患に対する治療とケアを通して、多様な思考力や想像力を養う。

到達目標：精神疾患に罹患した人々の内的苦悩を実感できる。
精神疾患の病態と成因、治療・ケアの基本的な理解ができる。
こころと行動の理解を目指す諸科学のめざましい発展の実状を理解する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

精神障害の成り立ちや治療を理解する上での精神医学全般に関する知識の提供。精神医学分野でのbio-psycho-social-ethicalといった多軸的な観点を養う。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出 版 社	定 価
標準精神医学	野村総一郎、樋口輝彦	医学書院	6,500円
現代臨床精神医学	大熊輝雄	金原出版	7,500円
精神医学	大月三郎	文光堂	7,200円
シネマサイキアトリー	小澤寛樹	中外医学社	4,968円
映画からみる精神医学 おとなの発達症のための 医療系支援のヒント	今村明	星和書店	3,024円

4. 成績評価の方法・基準

定期考査（筆記試験）80%、レポート20%などの他、出席状況も評価に含める。

5. 教員名

精神神経科：小澤寛樹、今村 明、黒滝直弘、木下裕久、杉本流、小野慎治
非常勤講師：岡崎祐士（道ノ尾病院）、齋藤利和（幹メンタルクリニック）、
高橋克朗（長崎県立精神医療センター）、肥田裕久（ひだクリニック）、
辻村徹（長崎みなとメディカルセンター市民病院）、
中根秀之（保健学科作業療法学専攻）

6. 備考（準備学習等）

精神系授業予定(4年前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	20	月	3	休講（初回担当教官不在のため）			4 講
4	20	月	4	休講（初回担当教官不在のため）			4 講
4	20	月	5	精神医学入門	歴史、主な理論・分野	精神科・小澤	4 講
4	27	月	3	精神作用物質性障害	アルコール&薬物関連精神障害、急性中毒、依存症候群（モルヒネ、アンフェタミン、大麻など）	非常勤・齋藤	4 講
4	27	月	4	精神疾患の分類と診断/精神症候学	分類概念、分類体系、診断基準、治療模擬患者VTR、精神病症状、感情障害症状、神経症症状	保健学科・中根	4 講
5	11	月	3	精神療法・摂食障害	精神分析、摂食障害	精神科・杉本	3 講
5	11	月	4	認知症の症候学、疫学、病態、治療、ケア	症候学、病態、疫学、薬物療法、非薬物療法	精神科・黒滝	3 講
5	11	月	5	パーソナリティ障害、生理機能の障害	パーソナリティ障害の概念史、分類、診断基準、睡眠障害	精神科・黒滝	3 講
5	18	月	3	「ひだクリニック」の活動①	ユーザーによる社会的活動	非常勤・肥田	4 講
5	18	月	4	「ひだクリニック」の活動②	ユーザーによる社会的活動	非常勤・肥田	4 講
5	27	水	3	気分障害の病態生理と治療①	脳形態、精神生理、心理学、生化学、薬物療法	精神科・小澤	3 講
5	27	水	4	気分障害の病態生理と治療②	脳形態、精神生理、心理学、生化学、薬物療法	精神科・小澤	3 講
6	1	月	3	器質性・症状性精神障害	概説、対象疾患、せん妄、身体疾患に伴う精神障害、症状精神病の概説	精神科・小野	4 講
6	1	月	4	リエゾン・コンサルテーション精神医学	概説、対象疾患、せん妄、チーム医療の概説	精神科・木下	4 講
6	8	月	3	統合失調症の症状と治療	精神薬理学、早期介入、薬物療法	精神科・今村	4 講
6	8	月	4	統合失調症の病態生理と成因	脳形態、精神生理、心理学、遺伝疫学、分子遺伝学	非常勤・岡崎	4 講
6	15	月	3	災害精神医学	トラウマの概念、PTSDの疫学、介入、治療	精神科・木下	4 講
6	15	月	4	神経症性障害	神経症の全般的説明、強迫性障害、パニック障害、全般性不安障害	非常勤・高橋	4 講
6	22	月	3	症状評価・検査法	面接法、評価尺度、生理学検査(脳波など)、脳画像検査、心理検査(投影法、非投影法など)	非常勤・辻村	4 講
6	22	月	4	司法精神医学	精神保健福祉法、触法精神障害、精神鑑定	精神科・今村	4 講
7	1	水	3	小児・思春期における精神障害①	自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害	精神科・今村	4 講
7	1	水	4	小児・思春期における精神障害②	不登校、被虐待児、行為障害その他	精神科・今村	4 講
7	6	月	3	精神医学における今日のニューロサイエンス	精神障害のニューロサイエンスの最近の研究から	精神科・小野	4 講
7	6	月	4	まとめ	まとめ	精神科・小澤	4 講
7	13	月	3	T B L			4 講
7	13	月	4	T B L			4 講

脳 ・ 神 経 系

責任者	氏 名	川上 純	内 線	7262
	教 室		e-mail	atsushik@nagasakiu.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Diseases of Nervous System		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

人間の脳・神経系は巧みに構築された高次構造・ネットワークによって機能している。神経疾患は、種々の原因（先天異常・遺伝子異常・感染症・炎症・外傷・血管障害・腫瘍・脱髄・変性・免疫異常など）に基づいたこれらの異常によって生じてくる。脳・神経系は中枢神経・末梢神経・神経筋接合部・筋に分けられるが、それらの場において、多種多彩な病因・病態が存在する。脳・神経系の教育目標・方針は、神経学に必要な基礎的領域をもとに、神経疾患をSystematicに学ぶことにある。

2. 授業内容（講義・実習項目）

全51時間のうち、神経内科学18、脳神経外科学15、小児神経学9、整形外科6、精神神経学3時間から、構成されている。まず、神経学総論は、解剖学・生理学などの基礎的知識をもとに全ての神経系を網羅し、主として神経内科学が担当して行われる。加えて小児神経学の立場から、発達神経学の基礎知識の修得、精神神経学より知能についての講義が行われる。更に、神経診断学を含めた神経学的検査法が、神経内科学、脳神経外科学的立場より講義される。神経学各論では、個々の機能的、器質的疾患に関して、神経内科、脳神経外科、小児神経、整形外科、精神神経科学的領域よりそれぞれ講義される。

3. 教科書、参考書等

必要に応じてプリントを配布する。

書 名	著 者	出版社	定 価
★神経内科ハンドブック	水野美邦	医学書院	14,500 円
★Pediatric Neurology	Swaiman	Mosby	
★標準整形外科学	広畑和志他	医学書院	8,700 円
★ニュースタANDARD 脳神経外科学	生塩之敬，種子田護， 山田和雄	三輪書店	7,350 円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験。

5. 教員名

脳神経内科：辻野 彰、白石裕一、立石洋平、中嶋秀樹、佐藤克也、中村龍文（非常勤講師）、本村政勝（非常勤講師）、木下郁夫（非常勤講師）、長郷国彦（非常勤講師）

脳神経外科：松尾孝之、角田圭司、出雲剛、堀江信貴、平尾朋仁
馬場啓至（非常勤講師）、栗原正紀（非常勤講師）、田渕和雄（非常勤講師）

小児科：津留 陽（非常勤講師）、里 龍晴

整形外科：梶山史郎、田上敦士

精神神経科：黒滝 直弘、木下 裕久

6. 備考（準備学習等）

講義ごとに学習テーマを呈示する。

脳・神経系授業予定（４年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	3	金	3	神経学総論	脳・神経系の構成と機能局在	脳神経内科・辻野	4 講
4	3	金	4	神経学総論	神経症候学と神経学的検査	脳神経内科・辻野	4 講
4	9	木	3	神経内科学各論	神経変性疾患	脳神経内科・白石	3 講
4	9	木	4	神経内科学各論	パーキンソン病	脳神経内科・白石	3 講
4	10	金	3	神経内科学各論	虚血性脳血管障害	脳神経内科・立石	4 講
4	10	金	4	神経内科学各論	脱随性疾患とHAM	長崎国際大学・中村	4 講
4	16	木	3	神経内科学各論	筋疾患	脳神経内科・白石	3 講
4	16	木	4	神経内科学各論	重症筋無力症とLambert-Eaton筋無力症候群	長崎総合科学大学・本村	3 講
4	17	金	3	神経内科学各論	末梢神経障害	諫早総合病院・長郷国彦	4 講
4	17	金	4	神経内科学各論	髄膜炎・脳炎とCJD	感染分子・佐藤克也	4 講
4	23	木	3	神経内科学各論	代謝性・中毒性疾患	脳神経内科・中嶋秀樹	3 講
4	23	木	4	神経内科学各論	頭痛・めまい	長崎原爆病院・木下郁夫	3 講
4	24	金	3	脊椎・脊髄疾患	脊髄の生理・解剖	整形外科・田上	4 講
4	24	金	4	脊椎・脊髄疾患	頸椎，頸髄疾患 胸椎，胸髄疾患	整形外科・田上	4 講
4	30	木	3	脳腫瘍	脳腫瘍各論	脳外科・松尾	4 講
4	30	木	4	脳血管障害	虚血性脳血管障害	脳外科 ・堀江	4 講
5	1	金	3	脳血管障害	これからの脳卒中リハビリテーション	非常勤・栗原	4 講
5	1	金	4			休講	4 講
5	8	金	3	頭部外傷	急性期頭部外傷（I）	脳外科・平尾	4 講
5	8	金	4	神経学的検査/先天異常・発育障害	神経学的検査 水頭症 その他	脳外科・角田	4 講
5	12	火	5	てんかん（a）	てんかんの外科的治療	非常勤・馬場啓至	4 講
5	15	金	3	筋疾患・麻痺性疾患/末梢神経(b)	筋疾患，麻痺性疾患の診断と治療 末梢神経の解剖，生理とその診断治療	整形外科・田上	4 講
5	15	金	4	脊椎・脊髄疾患	腰椎疾患	整形外科・梶山	4 講
5	22	金	3			休講	4 講
5	22	金	4			休講	4 講
5	29	金	3	知能低下	知能の定義・測定法・因子構成 知能低下の諸様相	精神科 黒滝	4 講
5	29	金	4	てんかん（b）	遅発性（非小児期）発症てんかん てんかんと精神症状	精神科 木下	4 講
6	3	水	3	脳血管障害	出血性脳血管障害	脳外科・出雲	4 講
6	3	水	4	脳腫瘍	脳腫瘍総論	脳外科・松尾	4 講
6	10	水	3	頭部外傷	急性期頭部外傷（II）・頭部外傷合併症	脳外科・平尾	4 講
6	10	水	4	脳神経外科概論	脳科学と脳外科臨床のかかわり	非常勤・田渕	4 講
6	17	水	3	小児神経各論①～②	小児てんかんの診断治療と基礎疾患	小児科・里	4 講
6	17	水	4	小児神経各論②	小児てんかんの診断・治療	小児科・里	4 講
6	19	金	3	小児発達総論	神経系の発達と精神運動機能 小児神経学的診察	非常勤・津留	3 講
6	19	金	4	小児発達各論①	フロッピーインファント	非常勤・津留	3 講
6	24	水	3	小児神経各論②	小児脳変性疾患	小児科・里	4 講
6	24	水	4	小児神経各論②	小児の急性脳症	小児科・里	4 講
7	10	金	3			休講	4 講
7	10	金	4			休講	4 講
7	17	金	3	T B L		脳神経内科・中嶋秀樹	4 講
7	17	金	4	T B L		脳神経内科・中嶋秀樹	4 講

皮 膚 系

責任者	氏 名	宇谷 厚志	内 線	7331
	教 室	皮膚科学 (皮膚病態学)	e-mail	utani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00～17:00 必ず事前にアポイントをとること		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Dermatology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

皮膚病変は実際に目で見る事が出来る病変であり、生検も容易に行える点が特異といえる。しかし皮膚病変の原因は無数にあり、診断名も煩雑であることが理解されにくい一因であろう。この系では、臨床医に必要な皮膚疾患の概説を行うが、単なる暗記ではなく、皮膚の構造と状態を理解し、病変を見た場合の診断の仕方を、(1)皮疹の見方、(2)病理所見、(3)病因、(4)病態などを把握しながら学んでほしい。

また、「皮膚は内臓の鏡」ともいわれ、思わぬ内臓疾患が判明することもある。皮膚病変の位置づけを全身疾患との関連性の面でも理解してほしい。

到達目標としては、発疹学が説明できるようになり、多彩な皮膚病変を分類することが出来、その症状、発生病理を説明できることである。

2. 授業内容（講義・実習項目）

全20時間の講義は、皮膚科15、形成外科4、病理1からなる。講義は皮膚の解剖、生理、病理、診断に始まり、皮膚科からは各種皮膚疾患の講義を、形成外科より形態異常、熱傷、瘢痕及びケロイド、皮膚潰瘍などの講義を行い、皮膚と内臓病変、治療をもって終了とする。詳細は講義日程を参照のこと。

3. 教科書、参考書等

皮膚科、病理：要点を記載したプリントを配布するが、全てはカバーできないため、参考書はぜひ一冊持ってほしい。

書 名	著 者	出版社	定 価
あたらしい皮膚科学	清水 宏 著	中山書店	7,980 円
皮膚科学	大塚藤男著、上野賢一 原著	金芳堂	12,600 円

形成外科：プリント配布予定

書 名	著 者	出版社	定 価
標準形成外科学 第6版	平林慎一・鈴木茂彦 編集	医学書院	6,090 円
TEXT形成外科 第2版	波利井清紀 監修	南山堂	9,064 円

4. 成績評価の方法・基準

講義終了後に筆記試験を行う。各科の時間数に応じて配点を割り当て、総計100点として評価する。60点以上を合格とするが、60点以上であっても各分野での得点が40点に満たない時は不合格となることもある。また、評価には出席率も考慮する。

5. 教員名

皮膚科：宇谷厚志、竹中 基、原 肇秀、富村沙織、鋤塚 大、小池雄太、鋤塚 さやか
 形成外科：田中克己、秋田定伯、吉本 浩
 病理診断科：木下直江
 非常勤：宿輪哲生（国病長崎医療センター）

6. 備考（準備学習等）

上記参考資料で、当該部分を一読しておくこと。

皮膚系授業予定（４年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	21	火	3	皮膚科概括講義	総論１：皮膚の構造と機能、湿疹・蕁麻疹	皮膚科・宇谷	3 講
4	21	火	4	皮膚科概括講義	総論２：皮膚病理組織学	病理診断科・木下	3 講
4	28	火	3	形成外科概論、組織移植	形成概論、組織移植、人工医用材料	形成外科・田中	3 講
4	28	火	4	皮膚科概括講義	各論１：水疱症・膿疱症	皮膚科・富村	3 講
5	12	火	3	皮膚科概括講義	各論２：紅斑・血管炎・膠原病	皮膚科・宇谷	3 講
5	12	火	4	皮膚科概括講義	各論３：紫外線皮膚障害	皮膚科・宇谷	3 講
5	26	火	3	皮膚科概括講義	各論４：角化症など	皮膚科・宇谷	3 講
5	26	火	4	皮膚科概括講義	各論５：ウイルス感染症など	皮膚科・宇谷	3 講
6	2	火	3	物理的皮膚損傷	熱傷・化学損傷	形成外科・吉本	3 講
6	2	火	4	特論１	毛髪・爪の異常、汗腺性疾患、脂腺系疾患	非常勤・宿輪	3 講
6	9	火	3	創傷治癒、瘢痕・ケロイド、慢性創傷	創傷治癒、瘢痕・ケロイド、褥瘡・難治性潰瘍	形成外科・秋田	3 講
6	9	火	4	特論２	細菌・真菌による皮膚感染症、虫などによる皮膚炎	皮膚科・竹中	3 講
6	16	火	3	皮膚形成の基礎	皮膚縫合法、植皮・各種皮弁、Z形成術	形成外科・田中	3 講
6	16	火	4	特論３	皮膚科治療法	皮膚科・原	3 講
6	23	火	3	皮膚科概括講義	各論６；肉芽腫症・アミロイドーシス	皮膚科・宇谷	3 講
6	23	火	4	特論４	真皮結合組織異常	皮膚科・宇谷	3 講
6	30	火	3	特論５	薬疹	皮膚科・竹中	2 講
6	30	火	4	特論６	母斑・色素異常症	皮膚科・鉏塚さやか	2 講
7	7	火	3	特論７	皮膚良性悪性腫瘍（メラノーマを含む）	皮膚科・鉏塚 大	4 講
7	7	火	4	特論８	皮膚リンパ腫及び関連疾患	皮膚科・小池	4 講
7	14	火	3	TBL			4 講
7	14	火	4	TBL			4 講

運 動 系

責任者	氏 名	尾崎 誠	内 線	7321
	教 室	整形外科（構造病態整形外科）	e-mail	mosaki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Musculo-skeletal system, lecture		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

四肢、脊椎、顔面等の運動器では、炎症、変性、腫瘍、外傷、先天異常、代謝疾患、血行障害など数多くの疾患が生じる可能性を含んでいる。これらの疾患を理解するためには、骨・関節系統のみならず神経・筋系統の広範な領域にわたる正常の機能を把握する必要がある。これらの疾患の治療目的は、生命の維持と疾患の予防ならびに機能確保・機能再建である。

学生諸君には運動器疾患の基礎として骨・関節・筋・神経の生理・代謝・構造の理解を求める。次に種々の検査法を含めた診断学、さらに治療学の概略ならびに各部位別の疾患とその治療法につき理解を求める。また急性疾患では適切な救急処置が出来るよう教育する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

主にプリントとスライドによる講義である。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
標準整形外科	中村利孝・内田淳正ほか	医学書院	9,870 円
整形外科サブノート	東 博彦ほか	南江堂	5,460 円
標準形成外科学 第5版	秦 維郎・野崎幹弘 編集	医学書院	7,140 円
TEXT 形成外科学 第2版	波利井清紀 監修	南山堂	6,300 円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験（出題範囲は講義内容と上記教科書）
評価には出席日数を考慮する

5. 教員名

整形外科： 尾崎誠、小関弘展、富田雅人、米倉暁彦、宮本俊之、宮本力、宮田倫明
穂積晃、松林昌平、梶山史郎、田上敦士、安達信二、福島達也、田口憲士
千葉恒、前田純一郎、津田圭一、松尾洋昭、黒木綾子、金丸由美子
形成外科： 田中克己、矢野浩規

6. 備考（準備学習等）

解剖学、生理学、生化学等の基礎的知識を整理しておくこと。

運動系授業予定（４年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	1	水	3	運動系総論（１）	総論、歴史	整形・尾崎	4 講
4	1	水	4	脊椎（１）	総論	整形・安達	4 講
4	6	月	3	手の外傷	手・指の機能解剖と手の外傷	形成・田中	4 講
4	6	月	4	顔面外傷	顔面外傷総論；軟部組織損傷・顔面骨骨折	形成・矢野	4 講
4	8	水	3	上肢の疾患（１）	肘関節・手関節	整形・松尾	4 講
4	8	水	4	腫瘍性疾患（１）	骨軟部腫瘍；診断学	整形・富田	4 講
4	13	月	3	運動系総論（２）	骨・軟骨の生理と病理	整形・宮田	4 講
4	13	月	4	下肢の疾患（１）	膝関節・足関節・足趾	整形・米倉	4 講
4	15	水	3	下肢の疾患（２）	股関節（成人）（各論）	整形・穂積	4 講
4	15	水	4	脊椎（２）	外傷	整形・安達	4 講
4	22	水	3	脊椎（３）	各論（A）	整形・津田	4 講
4	22	水	4	脊椎（４）	各論（B）	整形・津田	4 講
5	13	水	3	炎症性疾患（１）	関節リウマチ	整形・宮本 力	4 講
5	13	水	4	炎症性疾患（２）	リウマチ類似疾患	整形・宮本 力	4 講
5	25	月	3	腫瘍性疾患（２）	良性骨軟部腫瘍	整形・宮田	4 講
5	25	月	4	腫瘍性疾患（３）	悪性骨軟部腫瘍	整形・宮田	4 講
6	5	金	3	運動系総論（３）	治療学	整形・千葉	3 講
6	5	金	4	炎症性疾患（３）	骨・関節の感染症	整形・千葉	3 講
6	12	金	3	リハビリ（１）	リハビリ（総論）	保健学科・小関	3 講
6	12	金	4	リハビリ（２）	リハビリ（各論1）	整形・松林	3 講
6	26	金	3	骨・関節の外傷（１）	外傷総論	整形・宮本 俊之	3 講
6	26	金	4	骨・関節の外傷（２）	下肢の外傷	整形・田口	3 講
6	29	月	3	下肢の疾患（３）	股関節（成人）（総論）	整形・前田	4 講
6	29	月	4	上肢の疾患（２）	肩関節	整形・梶山	4 講
7	3	金	3	骨・関節の外傷（３）	上肢の外傷	整形・福島	4 講
7	3	金	4	運動系総論（４）	診断学	整形・米倉	4 講
7	8	水	3	リハビリ（３）	リハビリ（各論2）	整形・松林	1 講
7	8	水	4	下肢の疾患（４）	小児股関節疾患	整形・松林	1 講
7	15	水	3	運動系TBL		整形・黒木	4 講
7	15	水	4	運動系TBL		整形・金丸	4 講

1校時 8:50～10:20
 2校時 10:30～12:00
 3校時 13:00～14:30
 4校時 14:40～16:10

視 覚 系

責任者	氏 名	北 岡 隆	内 線	7344
	教 室	眼科学（眼科・視覚科学）	e-mail	tkitaoka@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 18:00-19:00 眼科医局		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Ophthalmology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

外界からの情報の80%以上は視覚を通して入力され、「失明宣告」は「死の宣告」にも匹敵する場合がある。視覚を得るための眼球他の構造と機能を学習し、さらにその視覚を脅かす疾患について理解させる。また眼科独自の検査についても学習する。

医師として必要な眼科領域の知識・技能の習得および内科に密接な関係をもつ眼科の重要性について十分な学習をすることを目標とする。

2. 授業内容（講義・実習項目）

基礎医学の知識を駆使して、眼科学を体系づけ、他臓器疾患との関連性をも理解させる。思考過程を重視し、考える講義にする。実習では講義で学んだ事項を身をもって体験させ、単なる知識の修得に終わらせないようにする。スライドおよび実際の眼科診療機材を提示し、視覚的アプローチを重視した講義を行う。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出 版 社	定 価
Vaughan & Asbury's General Ophthalmology. 18th Ed.	Paul Riordan-Eva, Emmett T. Cunningham Jr	McGraw-Hill Medical Publishing	約 12,000円
Clinical Ophthalmology: A Systematic Approach 7 th Ed.	Jack J. Kanski	Butterworth-Heinemann Medical	約 33,000円
標準眼科学 第12版	木下 茂 / 中澤 満 (編)	医学書院	約 7,600円
現代の眼科学 改訂第11版	所 敬 (監) 吉田 晃敏/谷原秀信 (編)	金原出版	約 7,800円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験にて可否を判定するが、出席状況も加味し、60点以上を合格とする。

5. 教員名

眼 科 学：北岡 隆、藤川亜月茶、上松聖典、築城英子、松本牧子、木下博文
非常勤講師：山之内宏一（思案橋ツダ眼科）、嵩 義則（ダケ眼科）、
今村直樹（南長崎ツダ眼科）、三島一晃（三島眼科）

6. 備考（準備学習等）

眼球および付属器に関して、人間生物学で学んだ知識をもって授業に臨むこと。第一回目の講義には、学生の知識レベルを確認するため小テストを行う。

視覚系授業予定（４年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	20	月	1	眼科総論	眼の構造・機能	眼科・北岡	4 講
			2	眼科総論	眼科検査Ⅰ	眼科・北岡	
4	27	月	1	眼科総論	眼科検査Ⅱ	眼科・北岡	4 講
			2	眼科総論	眼科症候学	眼科・藤川	
5	11	月	1	発生	発生・奇形	眼科・上松	3 講
			2	発達・眼位	斜視・弱視	眼科・上松	
5	18	月	1	前眼部	角膜・涙液	非常勤・今村	3 講
			2	前眼部	眼瞼・結膜・涙道	眼科・上松	
5	25	月	1	中間透光体	水晶体	眼科・木下	3 講
			2	ぶどう膜	ぶどう膜炎	眼科・藤川	
6	1	月	1	眼底	黄斑疾患	眼科・築城	3 講
			2	眼底	網膜循環障害	眼科・築城	
6	8	月	1	網膜	網膜疾患Ⅰ	眼科・松本	3 講
			2	網膜	網膜疾患Ⅱ	眼科・木下	
6	15	月	1	緑内障	緑内障Ⅰ	眼科・藤川	3 講
			2	緑内障	緑内障Ⅱ	非常勤・嵩	
6	22	月	1	眼窩・神経眼科	眼窩疾患	非常勤・三島	3 講
			2	神経眼科	神経眼科	眼科・松本	
6	29	月	1	全身疾患と眼	糖尿病網膜症	眼科・松本	4 講
			2	遺伝	全身疾患・遺伝と眼疾患	眼科・上松	
7	6	月	1	リハビリテーション	ロービジョンケア	非常勤・山之内	4 講
			2	救急	眼科救急と外傷	眼科・築城	
7	13	月	1	内容未定		眼科・北岡	4 講
			2	内容未定		眼科・北岡	

耳 鼻 咽 喉 口 腔 系

責任者	氏 名	高 橋 晴 雄	内 線	7349
	教 室	耳鼻咽喉・頭頸部外科学（展開医療科学講座）	e-mail	htak0831@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	19時30分		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Otorhinolaryngology—Head and Neck Surgery		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

感覚器を中心とした耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域の基礎を学び、検査、診断、治療法を理解する。また救急処置の基本を学び、併せて全身ないしは環境と耳鼻咽喉科領域の関連について学習をする。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義は4年次前期より始まる。耳科学、平衡神経学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、頭頸部外科学、救急医学に分類される。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
新耳鼻咽喉科学 改訂11版	野村恭也、加我君孝	南山堂	17,280円

4. 成績評価の方法・基準

講義内容について、筆記試験にて60点以上を合格とする。

講義は出欠をとり、出席状況が試験の採点に反映される。

5. 教員名

耳鼻咽喉科：高橋晴雄、金子賢一、高野 篤、吉田 晴郎、陣内進也、木原千春、原 稔
山口仁平、渡邊 毅

非常勤講師：重野浩一郎、隈上秀高、神田幸彦、宮崎総一郎

6. 備考（準備学習等）

解剖・生理を復習しておく。

耳鼻咽喉口腔系授業予定（４年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	2	木	1	耳科学	聴器の解剖・生理	耳鼻科・高橋	4 講
4	2	木	2		聴力検査	耳鼻科・木原	4 講
4	9	木	1	耳科学	耳の疾患（1）	耳鼻科・原	4 講
4	9	木	2		耳の疾患（2）	耳鼻科・原	4 講
4	23	木	1	耳科学	補聴器と先天性難聴	非常勤・神田	4 講
4	23	木	2		人工内耳	耳鼻科・高橋	4 講
4	30	木	1	神経耳科学	頭頸部領域の脳神経	耳鼻科・吉田	4 講
4	30	木	2	鼻科学	鼻・副鼻腔の解剖と生理	耳鼻科・高野	4 講
5	7	木	1	耳科学	中耳の手術	耳鼻科・高橋	4 講
5	7	木	2	鼻科学	鼻・副鼻腔疾患各論	耳鼻科・高野	4 講
5	14	木	1	平衡神経学	めまいの診断・平衡機能検査	非常勤・重野	4 講
5	14	木	2		めまい疾患各論	非常勤・隈上	4 講
5	21	木	1	口腔・咽頭科学	嚥下の生理と障害	耳鼻科・山口	4 講
5	21	木	2		口腔ケアと嚥下性肺炎	特殊歯科・久松	4 講
5	28	木	1	口腔・咽頭科学	耳鼻咽喉科に関連した睡眠学	非常勤・宮崎	4 講
5	28	木	2		口腔・咽頭の解剖・生理と疾患	耳鼻科・渡邊	4 講
6	4	木	1	頭頸部外科学	頭頸部腫瘍（1）	耳鼻科・陣内	4 講
6	4	木	2		頭頸部腫瘍（2）	耳鼻科・陣内	4 講
6	11	木	1	喉頭科学	喉頭の解剖と生理	耳鼻科・金子	4 講
6	11	木	2		喉頭疾患・音声外科	耳鼻科・金子	4 講
6	18	木	1	頭頸部外科学	側頭骨・頭蓋底	耳鼻科・吉田	4 講
6	18	木	2	救急医学	耳鼻咽喉科の救急疾患	耳鼻科・山口	4 講
6	25	木	1	T B L		未定	4 講
6	25	木	2			未定	4 講

衛生学・分子疫学

責任者	氏 名	中 込 治	内 線	7061
	教 室	分子疫学 (旧衛生学)	e-mail	onakagom@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火17:00-18:00		

対象年次・学期	4 年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1. 5
英語名	Hygiene and Molecular Epidemiology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：集団のレベルで疾病の原因と予防を究明する学問である疫学の基本とその考え方を徹底的に習得することを第一のねらいとし、その応用を感染症の疫学に展開して理解する。

到達目標：社会・環境と健康・疾病の関係、保健統計の意義と現状、疫学の概念と疫学の諸指標を説明できる。医療の発展における臨床研究の重要性を理解し、研究デザイン・メタ研究について概説できる。

2. 授業内容（講義・演習項目）

講義・演習を行う。講義は4年前期に行われる。

3. 教科書

「NEW予防医学・公衆衛生学」改訂第三版
岸礼子、大前和幸、小泉昭夫、古野純典 編集（南江堂）

1部 総論

第1章 衛生学・公衆衛生学の現状と歴史、基本的方法、活動分野

第3章 医の倫理

2部 人口統計、疫学と医用統計

第1章 人口統計と保健統計

第2章 疫学と方法

第3章 医用統計

4部 環境と健康

第1章 感染症の疫学と予防

第4章 食品保健

5部 社会保障と公衆衛生行政

第4章 国際保健

4. 参考書

書 名	著 者	出 版 社
臨床疫学-EBM実践のための必須知識	福井次矢 監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル
厚生指針「国民衛生の動向」	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会

5. 成績評価の方法・基準

4年前期試験期間に筆答試験を行う。60点以上を合格とする。

6. 教員名

分子疫学：中込 治、金子美穂

原研：高村 昇

広報戦略本部：堀口逸子

地域リハビリテーション学：本田純久

法医学：池松和哉

7. 備考（準備学習等）

授業項目について教科書を読んでおくこと。

衛生学・分子疫学講義予定

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
5	12	火	1	衛生学の概要	衛生学・公衆衛生学の歴史と現状	分子疫学・中込	3 講
5	12	火	2	疫学	疾病量の把握、記述疫学	分子疫学・中込	3 講
5	26	火	1	疫学	分析疫学	分子疫学・中込	3 講
5	26	火	2	疫学	無作為化比較試験	分子疫学・中込	3 講
6	2	火	1	疫学	臨床疫学	分子疫学・中込	3 講
6	2	火	2	疫学	Evidence-based medicine (EBM)	分子疫学・中込	3 講
6	9	火	1	疫学	感染症の数理モデル	分子疫学・中込	3 講
6	9	火	2	感染症	感染症の分子疫学	分子疫学・中込	3 講
6	16	火	1	国際保健	国際保健とグローバルヘルス(1)	原研・高村	3 講
6	16	火	2	国際保健	国際保健とグローバルヘルス(2)	原研・高村	3 講
6	23	火	1	感染症	サーベイランスと集団発生調査	分子疫学・金子	3 講
6	23	火	2	感染症	感染症法、ワクチンと予防接種政策	分子疫学・金子	3 講
6	30	火	1	食品保健	国民栄養、食中毒	広報戦略・堀口	1 講
6	30	火	2	食品保健	食品安全基本法と食品安全委員会	広報戦略・堀口	1 講
7	7	火	1	人口統計と保健統計	人口静態統計、人口動態統計	地域リハ・本田	4 講
7	7	火	2	人口統計と保健統計	主要死因の動向、疾病統計	地域リハ・本田	4 講
7	14	火	1	医事法制	医事法制概論(1)	法医学・池松	2 講
7	14	火	2	医事法制	医事法制概論(2)	法医学・池松	2 講
7	21	火	1	医事法制	医事法制概論(3)	法医学・池松	3 講
7	21	火	2	医事法制	死亡診断書(死体検案書)の書き方	法医学・池松	3 講

公衆衛生学

責任者	氏 名	青 柳 潔	内 線	7065
	教 室	公衆衛生学 (公衆衛生学)	e-mail	kiyoshi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月・火・水の12:00-13:00		

対象年次・学期	4 年・前期		講義形態	講義
必修・選択	必修		単位数	1. 5
英語名	Medical Care & Public Health			

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：この科目は衛生学及び公衆衛生学を主体とした社会医学に関する教育を体系化したものである。人間が生物的・社会的存在であるとの理解の上に、その健康擁護（Health Care）を図るのが社会医学の基本的立場である。本科目の講義を通じて人々の健康像・疾病像が生活環境や保健医療システムに大きく関わっていること、および地域あるいは職域の保健医療等の知識を得る。

到達目標：社会・環境と健康、生活習慣と疾病、保健・医療・福祉と介護の制度を説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義及び実習を行う。講義は4年前期に行われる。実習は5年期の臨床実習期間内に離島において行う。

3. 教科書

特に指定しない。必要に応じプリントを配布する。

4. 参考書

書 名	著 者	出 版 社
- シンプル衛生公衆衛生学 - 臨床疫学 - EBM実践のための必須知識。 - 厚生指針「国民衛生の動向」	鈴木庄亮、久道茂監修 福井次矢 監訳 厚生統計協会	南江堂 メディカル・サイエンス・インターナショナル、

5. 成績評価の方法・基準

4年前期試験期間に筆答試験を行う。60点以上を講義分の合格とする。

6. 教員名

公衆衛生学：青柳潔、安部恵代、有馬和彦、西村貴孝
 地域医療学：前田隆浩、
 広報戦略本部：堀口逸子
 保健学科・母性看護学：山本直子
 非常勤講師：草野洋介、今井秀樹、實森千香子

7. 備考（準備学習等）

授業項目について教科書を読んでおくこと。

公衆衛生学シラバス講義予定

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	7	火	1	保健・医療・福祉	社会保障制度	公衆衛生・青柳	3 講
4	7	火	2	保健・医療・福祉	医療保険・公費医療・医療経済	公衆衛生・西村	3 講
4	14	火	1	学校保健	学校保健安全法、保健管理	公衆衛生・有馬	3 講
4	14	火	2	母子保健	現状、母子保健、母体保護、児童虐待防止	母性看護・山本	3 講
4	21	火	1	環境保健	環境保全、公害、廃棄物処理	非常勤・今井	3 講
4	21	火	2	環境保健	内分泌攪乱物質・環境モニタリング	非常勤・今井	3 講
4	28	火	1	産業保健	労働衛生行政、労働安全衛生法、産業医	公衆衛生・青柳	3 講
4	28	火	2	産業保健	労働衛生管理、労働災害	公衆衛生・青柳	3 講
6	19	金	2	高齢者保健	高齢者の現状・高齢者医療確保法	公衆衛生・安部	3 講
6	26	金	2	高齢者保健	介護保険、保健・医療・福祉の連携	公衆衛生・安部	4 講
7	2	木	1	予防医学・健康増進	生活習慣病と保健	公衆衛生・安部	4 講
7	2	木	2	予防医学・健康増進	健康日本21、健康増進法、プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション	非常勤・草野	4 講
7	3	金	2	産業保健	職業癌、頸肩腕障害、腰痛、VDT	公衆衛生・安部	4 講
7	9	木	1	産業保健	重金属中毒、農薬中毒	公衆衛生・有馬	1 講
7	9	木	2	産業保健	騒音と振動、異常気圧・気温	公衆衛生・西村	1 講
7	10	金	2	産業保健	ガス中毒・酸欠、有機溶剤・化学物質中毒	非常勤・實森	4 講
7	16	木	1	保健・医療・福祉	医師法、医療法・医療計画、医療費適正化計画	地域医療学・前田	3 講
7	16	木	2	保健・医療・福祉	保健所、へき地・離島、災害・救急、在宅医療	地域医療学・前田	3 講
7	17	金	1	保健・医療・福祉	保健・医療・福祉施設・従事者	広報戦略本部・堀口	3 講
7	17	金	2	保健・医療・福祉	障害と社会、障害者福祉	公衆衛生・青柳	3 講

外科治療学

責任者	氏 名	江口 晋	内 線	7312
	教 室	移植・消化器外科学	e-mail	sueguchi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Surgical Therapeutics		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

外科治療学では外科総論、救急医学、臓器移植と人工臓器および麻酔科学について学ぶ。

2. 授業内容（講義）

外科総論においては外科的侵襲と手術患者の病態生理を理解し、基本的手術手技や術前術後管理を中心に学ぶ。救急医学においては救急患者の診断および重症病態の管理について学ぶ。臓器移植においては臓器移植の種類、内容と移植免疫、人工臓器においては人工臓器の種類と必要条件および問題点を中心に学ぶ。麻酔科学においては麻酔法、麻酔薬および呼吸循環管理など周術期管理を中心に学ぶ。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
標準外科学 13版	監修：加藤治文	医学書院	8,925 円
Principles of Surgery, 9th ed.	Schwartz S. I.	McGraw-Hill	15,513 円
Textbook of Surgery, 19th ed	Sabiston D. C	Saunders	16,334 円
TEXT麻酔・蘇生学 4版	澄川耕二、土肥修司編	南山堂	6,800 円
外傷初期診療ガイドライン	日本外傷学会・日本救急医学会 監修	へるす出版	16,800円

4. 成績評価の方法・基準

講義終了後に筆記試験を行い評価する。60点以上を合格とする。再試験は1回行なう。

5. 教員名

腫瘍外科：永安 武、大島雅之、七島篤志、山崎直哉、土谷智史、竹下浩明、日高重和、松本桂太郎
 移植・消化器外科：江口 晋、黒木 保、山之内孝彰、日高匡章、北里 周、曾山明彦、崎村千香
 麻酔科：原 哲也、村田寛明、北條美能留、境 徹也、樋田久美子、
 諸岡浩明（済生会長崎病院）
 集中治療部：関野元裕
 救命救急センター：田崎 修、長谷敦子、山下和範、田島吾郎、猪熊孝実、山野修平
 救急医療教育室：長谷敦子
 外傷センター：宮本俊之
 心臓血管外科：谷川和好
 泌尿器科：錦戸雅春

6. 講義時間割 ① 8:50-9:50 ② 9:55-10:55 ③ 11:00-12:00
④ 13:00-14:00 ⑤ 14:05-15:05 ⑥ 15:10-16:10

7. 備考（準備学習等）

解剖学、生理学、臓器機能・体液系を復習しておく。

外科治療学授業予定(4年前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員		教室
4	1	水	1	基本的外科手術手技	(1)手術器具、(2)基本的手術操作、(3)小外科手術手技	移植・消化器外科	江口 晋	4 講
				術前・術後の患者管理(1)	(1)術前の患者管理一般、(2)術前の特殊状態の評価と管理	移植・消化器外科	米田 晃	
			2	麻酔科学(1)	歴史・専門医制度・麻酔科学の領域	麻酔科	原 哲也	
4	2	木	3	外科の歴史と外科医の立場	(1)外科の歴史、(2)外科医と法、(3)専門医制度	腫瘍外科	永安 武	3 講
				問診ならびに外科的診察法	(1)病歴、(2)理学的所見	腫瘍外科	永安 武	
			4	麻酔科学(2)	全身麻酔-吸入麻酔法	麻酔科	原 哲也	
4	8	水	1	術前・術後の患者管理(2)	(3)術後の患者管理一般、(4)術後合併症とその対策	移植・消化器外科	米田 晃	4 講
				救急医学(1)	救急医学概論、救急医療システム	救命救急センター	田崎修	
			2	麻酔科学(3)	全身麻酔-静脈麻酔薬・筋弛緩薬	麻酔科非常勤講師：済生会長崎病院	諸岡浩明	
4	15	水	1	ショック(1)	(1)ショックの概念、(2)ショックの原因と分類、(3)ショックの病態	移植・消化器外科	崎村千香	4 講
				救急医学(2)	心肺蘇生法と脳死判定	救命救急センター	長谷敦子	
			2	麻酔科学(4)	局所麻酔薬・浸潤麻酔・伝達麻酔	麻酔科	村田寛明	
4	22	水	1	ショック(2)	(4)ショックの治療、(5)ショックの合併症とショック臓器	移植・消化器外科	崎村千香	4 講
				救急医学(3)	救急診察法及び診断、外傷初期診療	救命救急センター	猪熊孝実	
			2	麻酔科学(5)	脊髄麻酔と硬膜外麻酔	麻酔科	原 哲也	
5	13	水	1	小児外科の特徴	(1)小児外科の特徴、(2)新生児・未熟児の特徴、(3)術前・術後の栄養管理	移植・消化器外科	小坂太一郎	3 講
				損傷と創傷治癒	(1)機械的損傷、(2)非機械的損傷、(3)創傷の治癒過程、(4)創傷治癒を左右する因子、(5)創傷管理の実際	腫瘍外科	大島雅之	
			2	麻酔科学(6)	周術期全身管理-呼吸管理	麻酔科	原 哲也	
5	27	水	1	炎症と感染(1)	(1)炎症の概念と病態生理、(2)臨床症状と所見、(3)外科的感染症の起炎菌	移植・消化器外科	曾山明彦	3 講
				体液の変動と輸液	(1)正常体液分布、(2)侵襲と体液変動、(3)水・電解質異常、(4)酸塩基平衡傷害、(5)輸液療法	腫瘍外科	七島篤志	
			2	麻酔科学(7)	集中治療と急性重症病態	集中治療部(麻酔科)	関野元裕	
6	3	水	1	炎症と感染(2)	(4)全身感染症と敗血症、(5)外科的特殊感染症、(6)治療	移植・消化器外科	曾山明彦	3 講
				血液凝固異常と輸血	(1)止血機構、(2)止血機構の傷害、(3)輸血の目的、(4)血液製剤の種類と特徴、(5)輸血法、(6)輸血の副作用と合併症	腫瘍外科	日高重和	
			2	麻酔科学(8)	周術期全身管理-循環管理	麻酔科	原 哲也	

外科治療学授業予定(4年前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員		教室
6	10	水	1	外科と免疫(1)	(1)免疫機構と調節、(2)腫瘍免疫	腫瘍外科	竹下浩明	3 講
			2	救急医学(4)	環境異常と生体反応	救命救急センター	田島吾郎	
			2	麻酔科学(9)	周術期全身管理-体液管理	麻酔科	原 哲也	
6	17	水	1	外科と免疫(2)	(3)移植免疫、(4)免疫不全と日和見感染	腫瘍外科	竹下浩明	3 講
			2	救急医学(5)	災害医療 (特別講義)	救命救急センター	山下和範	
			2	麻酔科学(10)	ペインクリニック-痛み診療の基礎	麻酔科	境 徹也	
6	24	水	1	腫瘍(1)	(1)良性腫瘍と悪性腫瘍、(2)発癌メカニズム、(3)悪性腫瘍の病態	腫瘍外科	松本桂太郎	3 講
			2	救急医学(6)	外傷治療プロトコール	外傷センター	宮本俊之	
			2	麻酔科学(11)	ペインクリニック-腰下肢痛	麻酔科	樋田久美子	
7	1	水	1	外科と栄養(1)	(1)外科における栄養管理の意義、(2)栄養アセスメント	移植・消化器外科	北里 周	4 講
			2	救急医学(7)	熱傷、化学損傷、電撃症	救命救急センター	山野修平	
			2	麻酔科学(12)	緩和医療	麻酔科	北條美能留	
7	8	水	1	老人外科の特徴	(1)老人外科の特徴、(2)手術適応、(3)周術期管理の特徴	移植・消化器外科	山之内孝彰	1 講
			2	外科的侵襲と生体反応(1)	(1)神経内分泌系の反応、(2)循環系の反応、(3)代謝系の反応	腫瘍外科	土谷智史	
			2	外科的侵襲と生体反応(2)	(4)免疫系の反応、(5)血液凝固系の反応、(6)術後の生体反応と回復過程	腫瘍外科	土谷智史	
7	15	水	1	外科と栄養(2)	(3)経腸栄養、(4)経静脈栄養	移植・消化器外科	北里 周	1 講
			2	腫瘍(2)	(4)臨床診断と特殊検査、(5)悪性腫瘍の治療、(6)悪性腫瘍の疫学	腫瘍外科	山崎直哉	
			2	移植と人工臓器	泌尿器系の移植と人工臓器	泌尿器科	錦戸雅春	
7	16	木	3	移植と人工臓器	消化器系の移植と人工臓器	移植・消化器外科	日高匡章	3 講
			4	移植と人工臓器	呼吸器系の移植と人工臓器	腫瘍外科	山崎直哉	
			4	移植と人工臓器	循環器系の移植と人工臓器	心臓血管外科	谷川和好	
7	21	火	3	TBL	Team Based Learning	移植・消化器外科	黒木 保	4 講
			4					

臨床医学 TBL (I・II・III)

責任者	氏 名	安武 亨	内 線	7987
	教 室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30 ～ 17:30		

対象年次・学期	3年前期・後期 4年前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	I : 2単位, II : 1単位 III : 1単位
英語名	Team Based Learning		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

チーム基盤型学習 (Team-based learning : TBL) は、各臨床系統講義終了後にまとめの意味も含んで行われる学習形態である。7～8人ずつの小グループに分かれ、大講義室で一斉に討論する。

下記に具体的な流れを記載する。

- ① 講義前に、与えられたテーマや内容に沿った事前学習を行っておく。
- ② 講義当日にまず事前学習内容に沿った準備確認テストを行う。
- ③ テスト後の解説を受ける。
- ④ 応用問題をグループ内、グループ間で討論する。
- ⑤ まとめを行う。

このように自分の理解度を確認し、他人と知識を交換・共有することにより、より記憶に残り学習効果が増加することが分かっている。座学による受動的な学習を行った後にTBLのような能動的学習を行うことにより、学んだ知識を臨床医療に沿って利用することができるようになり、臨床実習へのステップとなることを期待する学習形態である。

2. 授業内容（講義・実習項目）

担当教官によって内容は異なる。

3. 教科書、参考書

適宜。事前学習方法・内容に関しても担当教官によって異なる。

4. 成績評価の方法・基準

出席の状況、準備確認テストの結果、討論への参加状況をもとに評価する。

5. カリキュラム

チーム編成、授業内容、担当教官等は別途。

6. 備考

法 医 学 系

責任者	氏 名	池松 和哉	内 線	7076
	教 室	社会医学・法医学	e-mail	k-ikema@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30～17:30		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Forensic Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

法医学は「医学的解明助言を必要とする法律上の案件・事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的」としており、これを達成するために必要な知識獲得を到達目標とする。

到達目標：

1. 「異状死」という概念を説明できること。
2. 医師の専任事項である死体検案（死後診察）について確実に理解できること。
特に、検案の主目的である「死因」、「死亡推定時刻」、「個人識別」、「法医学的異状の有無」に関しては、論理的で正確な判断を行なえること。
3. 医師として必要な「死亡診断書（死体検案書）」を正確に記載・作成できること。

2. 授業内容（講義・実習項目）

到達目標に則して、死因論、損傷論、個人識別、及び異状死の概念と死体検案の方法並びに死体検案書の記載・作成法等の講義を行なう。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
★学生のための法医学（改訂6版）	田中宣幸 他	南山堂	5,300 円
★死体検案マニュアル2010 年	日本法医学会	日本法医学会	2,000 円

4. 成績評価の方法・基準

定期考査70%、小テスト15%、レポート15%で評価する。
上記到達目標を60%以上到達できた場合を合格とする。

5. 教員名

法医学：池松和哉、山本琢磨、梅原敬弘

放射線科：村上友則

非常勤講師：久保真一（福岡大学）、木下博之（香川大学）、北村修（金沢医科大学）
小片守（鹿児島大）、神田芳郎（久留米大学）

6. 備考（準備学習等）

講義前に教科書を読み、法医学用語を学習しておく。

法医学系授業予定（４年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教官	教室
9	24	木	3	法医学概論	法医学の定義・歴史	法医・山本	3 講
9	24	木	4	死の判定と死因 外因死と内因死	生から死への過程、死の判定、死因、 死因論・外因死と内因死の定義		
10	1	木	3	損傷（１）	損傷総論・鈍器損傷	法医・池松	3 講
10	1	木	4	損傷（２）	鋭器・鈍器損傷		
10	6	火	1	損傷（３）	損傷の評価法	法医・池松	4 講
10	6	火	2	窒息死（１）	窒息総論・頸部圧迫による窒息死 1		
10	8	木	3	死体現象	死体現象と死後経過時間の推定	法医・山本	3 講
10	8	木	4	損傷（４）	頭部の損傷（外景・内景所見と死因）	非常勤・久保	
10	13	火	1	法医中毒学（１）	中毒総論・アルコール	非常勤・木下	4 講
10	13	火	2	法医中毒学（２）	農薬・医薬品中毒・乱用薬物		
10	15	木	3	損傷（５）	交通事故による損傷	法医・池松	3 講
10	15	木	4	個人識別（１）	血液型・DNA型	非常勤・神田	
10	20	火	1	窒息死（２）	頸部圧迫による窒息死 2	法医・池松	4 講
10	20	火	2	内因死	法医学における内因性急死	非常勤・北村	
10	22	木	3	胎・嬰兒の死	嬰兒殺	法医・山本	3 講
10	22	木	4	損傷（６）	小児・配偶者・高齢者に対する虐待	非常勤・小片	
10	27	火	1	個人識別（２）	個人識別の実際	法医・梅原	4 講
10	27	火	2	死後画像診断	法医学における画像診断	放射線科・村上	
10	29	木	3	溺死	溺死体と水中死体	法医・山本	3 講
10	29	木	4	異常環境下の死	高温による障害・低温による障害		
11	5	木	3	検案の実際	検案の方法と注意点	法医・山本	3 講
11	5	木	4	法医学演習	症例の検討	法医・池松	

診 断 学

責任者	氏 名	大 園 恵 幸	内 線	7323
	教 室	総合診療学（総合診療学）	e-mail	oozono@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:30-18:30		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
英語名	Physical Diagnosis		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

診断学では、臨床の第一歩として医師－患者信頼関係を重視した医療面接技能及び基本的臨床技能を修得する。さらに症候から診断への的確なアプローチ法を学ぶとともに患者の立場に立った医療を行える医師となるための基礎を築くことを目標とする。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義：総論として医療面接技能、基本的身体診察技能とともに内科、外科、臨床検査診断、放射線、内視鏡、症候診断、眼底、鼓膜診察法を教授する。

実習：実習要領に沿って総論実習2回と項目についての各論実習を10回行う。

総論実習では、チューターとなる教官がそれぞれのグループの学生に基本的診察技能を指導する。各論実習では、それぞれの専門医が主要症候から診断法、身体診察法を指導する。

3. 教科書、参考書等

基本的臨床技能マニュアル(長崎大学医学部編)を配付する。それに加えて下記の教科書・参考書が参考となる。

書 名	著 者	出版社	定 価
内科診断学	武内重五郎	南江堂	8,715 円
診察診断学	高久史麿 監修 橋本信也、福井次矢	医学書院	6,300 円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験：講義及び実習内容について筆答試験を行う。

実技試験：共用試験OSCE（客観的臨床技能試験）により実技試験を行い修得度を判定する。

出席：講義・実習とも出席状況の評価に入れる。

評価方法：筆記試験と実技試験を総合して評価する。

成績評価の基準：総点の60%以上かつ実技試験の60%以上を合格とする

5. 教員名

第一内科：川上、阿比留、中村、安藤、
赤澤、一瀬、岩本、古賀
脳神経内科：辻野、白石、中嶋、吉村、向野
第二内科：尾長谷、福島、中村、浦松
循環器内科：前村、河野、小出、池田、
片山、深江、恒任、土居、石松、
古賀、米倉、中田、江口、荒川
原研内科：宮崎、波多、今泉
熱研内科：有吉、神白、高木、山下、田中
消化器内科：中尾、竹島、大仁田、田浦、
宮明、山口、赤澤、三馬、柴田、本田、
松島、石居

第一外科：永安、大畠、山崎、竹下、矢野、
土肥、山根、和田、町野、田淵、馬場、谷口
放射線科：上谷、坂本、工藤
検査部：柳原、森永、宇野、小佐井
耳鼻科：高橋、渡邊
眼科：北岡
光学医療診療部：磯本
総合診療科：大園、中道、井上
先端医育支援センター：安武

6. 備考（準備学習等）

実習の前には、基本的臨床技能マニュアル(長崎大学医学部編)やその他の教科書であらかじめ予習しておくこと。

診断学授業予定（4年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	25	金	2	外科学診断学総論	乳腺・リンパ節の診察, ガウンテクニック	第1外科 矢野	4 講
9	25	金	3	診断学総論①	基本的身体診察	総診 中道・井上	
9	25	金	4	診断学総論①	基本的身体診察	総診 中道・井上	
9	29	火	3	放射線診断学総論	X線撮影, CT, MRI	放射線科 上谷	3 講
9	29	火	4	放射線診断学総論	医療被曝と放射線防護	放射線科 工藤	
9	30	水	2	外科学診断学総論	直腸・肛門の診察, 外科縫合	第1外科 竹下	4 講
9	30	水	3	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
9	30	水	4	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	2	金	2	臨床検査医学総論	検査診断学総論	検査部 柳原・森永	4 講
10	2	金	3	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	2	金	4	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	6	火	3	診断学総論②	診断のプロセス, 医療面接	総診 大園	3 講
10	6	火	4	診断学総論②	診断のプロセス, 医療面接	総診 大園	
10	7	水	2	内視鏡診断学総論	消化管非腫瘍	光学 磯本	4 講
10	7	水	3	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	7	水	4	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	9	金	2	臨床検査医学総論	血液・血清診断学	検査部 宇野	4 講
10	9	金	3	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	9	金	4	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	13	火	3	臨床検査医学総論	微生物検査診断学	検査部 小佐井	3 講
10	13	火	4	症候診断学①	症候診断学とMEDLINE	第一内科 川上	
10	14	水	2	放射線診断学総論	造影検査と造影剤	放射線科 坂本	4 講
10	14	水	3	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	14	水	4	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	16	金	2	症候診断学②	プライマリ症候診断学	総診 大園	4 講
10	16	金	3	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	16	金	4	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	21	水	2	症候診断学③	循環器診断学のポイント	循環器内科 前村	4 講
10	21	水	3	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	21	水	4	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	

診断学授業予定（4年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	23	金	2	症候診断学④	呼吸器診断学のポイント	第2内科 尾長谷	4 講
10	23	金	3	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	23	金	4	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	28	水	2	眼底の診察法	眼底検査の理論と実際	眼科 北岡	4 講
10	28	水	3	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	28	水	4	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	30	金	2	内視鏡診断学総論	消化管腫瘍	光学 磯本	4 講
10	30	金	3	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
10	30	金	4	診断学各論実習	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・1外科	
11	4	水	2	症候診断学⑤	血液疾患の兆候から診断までのプロセス	血液内科 宮崎	4 講
11	4	水	3	症候診断学⑥	発熱患者の診かた	熱研内科 田中	3 講
11	4	水	4	鼓膜の診察法	耳鏡の使い方	耳鼻咽喉科 渡邊	
11	13	金	2	症候診断学⑦	腹痛の診断学	消化器内科 竹島	3 講
11	13	金	3	内科診断学総論実習①	内科診断学総論要項参照	内科・総合診療科	
11	13	金	4	内科診断学総論実習①	内科診断学総論要項参照	内科・総合診療科	
11	20	金	2	OSCE	OSCEについて	先端医育支援センター 安武	3 講
11	20	金	3	内科診断学総論実習②	内科診断学総論要項参照	内科・総合診療科	
11	20	金	4	内科診断学総論実習②	内科診断学総論要項参照	内科・総合診療科	

7. 内科診断学総論要項

(1) 総論実習

基本的身体診察法を学ぶための実習2回（11/13, 11/20のいずれも午後）は、A～Pの16グループに分かれて、下表の指導教員のもとで行う。各実習日の13:30に下表の場所に集合すること。

グループ（学生番号）	指導担当教官	集合場所・実習場所
A（ ）	白石裕一（第1内科）	病院7階 シミュレーション室
B（ ）	阿比留教生（第1内科）	病院7階 シミュレーション室
C（ ）	中村英樹（第1内科）	病院7階 シミュレーション室
D（ ）	尾長谷靖（第2内科）	病院3階 呼吸器内科外来集合
E（ ）	福島千鶴（第2内科）	病院3階 呼吸器内科外来集合
F（ ）	中村洋一（第2内科）	病院3階 呼吸器内科外来集合
G（ ）	河野浩章（循環器内科）	病院2階循環器内科外来
H（ ）	小出優史（循環器内科）	病院2階循環器内科外来
I（ ）	竹島史直（消化器内科）	病院3階 消化器内科外来
J（ ）	田浦直太（消化器内科）	病院9階 ゼミ室
K（ ）	波多智子（原研内科）	病院3階 血液内科外来
L（ ）	今泉芳孝（原研内科）	病院3階 血液内科外来
M（ ）	神白麻衣子（熱研内科）	病院3階 呼吸器感染症外来
N（ ）	山下嘉郎（熱研内科）	病院3階 呼吸器感染症外来
O（ ）	中道聖子（総合診療科）	第3講義室・1F総診外来
P（ ）	井上圭太（総合診療科）	第3講義室・1F総診外来

☆ A・Bは総論実習のグループ編成を示す。以下同様

☆ グループ編成は後日知らせる。

☆ 実習（総論）の開始は13:30からである。講義とは異なっているので気をつけること

(2) 各論実習

下記の日程に従って、神経、血液、感染症、代謝、内分泌、消化器、呼吸器、循環器、膠原病、腎臓、外科、プライマリケア、疾患についての基本的診断手技の実習を行う。

各論実習ローテーション表

実習期日			9/30	10/2	10/7	10/9	10/14	10/16	10/21	10/23	10/28	10/30
実 習 項 目 担当責任教員	実習時間	集合場所 実習場所	水	金	水	金	水	金	水	金	水	金
神経疾患 (第1内科) 白石 裕一	13:30～15:00	病院本館9F 多目的室1 (第一会議室)	I・II	I・II	IX・X	IX・X	VII・VIII	VII・VIII	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV
	15:20～16:50		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV	
膠原病疾患 (第1内科) 中村英樹	15:20～16:50	病院本館9F 多目的室1 (第一会議室)		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV
血液疾患 (原研内科) 今泉芳孝	13:30～15:00	病院3階 血液内科外来	III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI	
感染症疾患 (熱研内科) 高木理博	15:20～16:50	国際医療センター3階 カンファ室	III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI	
代謝疾患 (第1内科) 赤澤 諭	13:30～15:00	病院9F チェアマン室		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI
内分泌疾患 (第1内科) 安藤隆雄	15:20～16:50	病院9F チェアマン室		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI
消化器疾患 (消化器内科) 宮明寿光	13:30～15:00	病院9階 ゼミ室(906)	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II	IX・X	IX・X	VII・VIII	VII・VIII
	15:20～16:50		V・VI		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII	
プライマリケア・ BLS (総合診療科) 井上圭太	15:20～16:50	第3講義室 (10/2のみ第4講義室)		V・VI (第4講義室)		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII
呼吸器疾患 (第2内科) 中村洋一	13:30～15:00	病院9階 ゼミ室(905)	VII・VIII	VII・VIII	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II	IX・X	IX・X
	15:20～16:50		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II		IX・X	
腎臓疾患 (第2内科) 浦松 正	15:20～16:50	病院9階 ゼミ室(905)		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II		IX・X
循環器疾患 (循環器内科) 池田, 他	13:30～15:00	シミュレーション室(7階)	IX・X	IX・X	VII・VIII	VII・VIII	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II
	15:20～16:50		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II	
外科 (第1外科) 大島, 他	15:20～16:50	シミュレーション室(7階)		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II

☆ I・IIは各論実習のグループ編成を示す。以下同様

☆ グループ編成は後日知らせる。

☆ 総論と各論でグループ編成が異なることに注意

☆ BLS: Basic Life Support

☆ 実習(各論)の開始は13:30からである。講義とは異なっているので気をつけること

臨床検査医学

責任者	氏 名	柳原 克紀	内 線	7574
	教 室	臨床検査医学 (病態解析・診断学)	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Laboratory Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ね ら い：医療における検査の意義を系統的に理解し解釈する能力を養う。

方 法（学習指導法）：講義形式とし、プリントやプロジェクターを用いて解説する。

到達目標：検査情報を正しく分析・解釈することができ、また検査情報を活用した適正な医学的判断能力を習得できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

正しい臨床診断を得るためには検査データの科学的かつ総合的な解釈能力が要求される。病院の中核部門の1つである検査部や輸血部で行われている検査について理解を深め、各種検査についての基本的知識や解釈原理、異常値が出る病態生理学的機序を理解する授業を行う。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社
臨床検査ガイド 標準臨床検査医学 臨床検査法提要 よくわかる輸血学・改訂版 移植・輸血検査学 血液細胞アトラス Handbook of Hematologic Pathology Molecular Diagnostics Methods and Clinical Applications 戸田新細菌学	大久保光夫 Lela Buckingham 吉田眞一、柳雄介、 吉開泰信 一山智、田中美智男	文光堂 医学書院 金原出版 羊土社 講談社 文光堂 Marcel Dekker Inc, USA F.A.Davis 南山堂 医学書院
標準臨床検査学「微生物学・臨床微生物学・医動物学」		

4. 成績評価の方法・基準

講義終了後に筆記試験を行い、60点以上を合格とする。講義に1/3以上欠席すると受験の資格はないものとする。

5. 教員名

臨床検査医学：柳原克紀、長谷川寛雄、森永芳智、宇野直輝、小佐井康介
病院細胞療法部：長井一浩

6. 備考（準備学習等）

授業の前に参考書で予習をしておくこと。

臨床検査医学授業予定（４年後期）

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	25	金	1	医療と臨床検査	臨床検査医学・柳原	4 講
9	30	水	1	検査値の解釈原理	臨床検査医学・柳原	4 講
10	2	金	1	一般検査	臨床検査医学・長谷川	4 講
10	7	水	1	検査血液学	臨床検査医学・長谷川	4 講
10	9	金	1	臨床化学検査総論	臨床検査医学・宇野	4 講
10	14	水	1	臨床化学検査各論（１）	臨床検査医学・森永	4 講
10	16	金	1	臨床化学検査各論（２）	臨床検査医学・森永	4 講
10	21	水	1	生理機能検査	臨床検査医学・森永	4 講
10	23	金	1	微生物検査（１）	臨床検査医学・小佐井	4 講
10	28	水	1	微生物検査（２）	臨床検査医学・小佐井	4 講
10	30	金	1	免疫血清検査	臨床検査医学・長谷川	4 講
11	2	月	3	輸血（１）	病院細胞療法部・長井	4 講
11	2	月	4	輸血（２）	病院細胞療法部・長井	4 講
11	4	水	1	遺伝子検査総論	臨床検査医学・宇野	4 講
11	13	金	1	遺伝子検査各論	臨床検査医学・長谷川	3 講
11	20	金	1	検査の実際	臨床検査医学・柳原	3 講

臨床疫学・医療情報学

責任者	氏 名	大 園 恵 幸	内 線	7323
	教 室	(総合診療学)	e-mail	oozono@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:30-18:30		
責任者	氏 名	本 多 正 幸	内 線	7536
	教 室	(医療情報部)	e-mail	m-honda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:30-18:30		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	General Medicine・Medical Informatics		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

[臨床疫学]

臨床の現場では、患者に対し最適で最良の医療を提供するため Evidence に基づいた臨床判断を下すことが重要である。そのために必要な基本的臨床疫学の知識と Evidenced Based Medicine (EBM) の実践法の授業を行う。到達目標として患者の種々の医療問題に対し EBM を実践する方法を学ぶ。

[医療情報学]

ねらい：医療分野における IT 化に向けた政府や厚生労働省の動向、病院情報システムや地域医療情報システムの実態とその問題点を把握し、病院における患者データの管理や研究支援（統計学）に関してその方法を理解する。授業方法：資料および PC 等を用いた講義形式により授業を展開する。

到達目標：医療分野における IT 化の動向、医療機関における情報システム・電子カルテと特徴と問題点、地域医療連携システムの実情とメリット、離島医療支援の経過と現状、データの標準化、セキュリティに関して概ね基礎的内容が説明できる。基本的な統計学の概念が説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

- 臨床疫学に必要な統計学、EBM の実際（臨床上の問題点の抽出、情報の収集、批判的吟味、患者への適用）についての講義及び演習
- 医療情報システム、病院情報システム、広域医療情報ネットワーク、システム運用、患者データベース、データの再利用（統計解析）などに関する講義

3. 教科書、参考書等

書名	著名	出版社	定価
EBM 実践ワークブック 削除 一より良い治療を目指して一	名郷直樹	南江堂	3000 円
論文が読める！早わかり統計学—臨床研究データを理解するためのエッセンス	Geoffrey R. Norman, David L. Streiner (著)、中野正孝、他 (訳)	メディカル・サイ エンス・インター ナショナル	4095 円

4. 評価の方法・基準

(臨床疫学) 出席および与えられたテーマに対するレポートで行う。

(医療情報学) 出席点 50%、レポート 50% (レポートの評価の基準は、与えられたテーマについて調査し、適切なキーワードを用いて的確に内容が説明できているかどうかを判断基準とする。)

5. 教員名

大園恵幸、中道聖子、本多正幸、松本武浩

6. 備考（準備学習等）

(臨床疫学) これまで学習した医学統計学を復習しておく。

(医療情報学) これまで学習した、情報処理関連の講義・演習等を復習しておく。

臨床疫学・医療情報学授業予定（４年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	28	月	1	医療情報学	地域連携のIT化	医療情報部・松本武浩	4 講
9	28	月	2	医療情報学	医療情報システム概要と病院情報システム	医療情報部・本多正幸	4 講
10	5	月	1	医療情報学	統計解析Ⅰ（統計学の基礎）	医療情報部・本多正幸	4 講
10	5	月	2	医療情報学	統計解析Ⅱ（推定・検定・他）	医療情報部・本多正幸	4 講
10	19	月	1	臨床疫学	臨床に必要な統計学	総合診療科・大園恵幸	4 講
10	19	月	2	臨床疫学	EBMの実践 患者問題の定式化	総合診療科・大園恵幸	4 講
10	26	月	1	臨床疫学	EBMの実際のための情報収集法	総合診療科・大園恵幸・中道聖子	4 講
10	26	月	2	臨床疫学	EBMの患者への適用	総合診療科・大園恵幸 中道聖子	4 講

臨床薬理学

責任者	氏 名	佐々木 均	内 線	7245
	教 室	臨床薬物動態学（薬剤部）	e -mail	sasaki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	佐々木 均、sasaki@nagasaki-u.ac.jp、095-819-7245、18:00以降（薬剤部部長室） 北原 隆志、kitappy@nagasaki-u.ac.jp、095-819-7250、火曜日18:00以降（薬剤部副部長室）		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	Clinical Pharmacology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

臨床で薬物治療を実施する場合、薬剤の体内動態を合理的に予測し、病態に影響する各種要因や最新の相互作用・副作用の情報を考慮し、適正な製剤を選択し、総合的な投与計画を設計する必要がある。この講義では、薬物投与設計のための薬物速度論を理解し、相互作用や製剤の基礎知識を深め、実際に臨床で応用できる能力を身に付ける。

2. 授業内容（講義・実習項目）

薬物の臨床使用を想定した点滴投与、経口投与などの薬物速度論を講義する。さらに、薬物投与設計のための投与量、投与間隔、投与方法などの理論を学び、実際の薬物について、自分で投与設計を行う。また、Therapeutic Drug Monitoringの症例をもとに影響因子を考察する。さらに、処方設計の考え方、薬物相互作用の基礎知識、新規製剤の知識、特定薬剤治療管理料を算定できる薬剤の詳細について講義する。

3. 教科書、参考書等 必要に応じて資料配布

書 名	著 者	出版社	定 価
資料配布			

4. 成績評価の方法・基準

課題レポート提出・内容 (50%)と、出席・小テスト (50%)を考慮して判定する。

5. 教員名

大学病院薬剤部 佐々木均、北原隆志

6. 備考（準備学習等）

臨床薬理学授業予定（４年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	28	月	3	医薬品概論	医薬品開発の歴史、医薬品にかかわる法規制について概説する。	薬剤部・佐々木	4 講
9	28	月	4	処方設計	処方箋の法的意義や処方設計における注意点などに関して講義する。	薬剤部・北原	
10	5	月	3	薬物動態1	薬物の体内動態(吸収・分布)の原理と影響する各種要因について講義する。	薬剤部・佐々木	4 講
10	5	月	4	薬物動態2	薬物の体内動態(代謝・排泄)の原理と影響する各種要因について講義する。	薬剤部・北原	
10	19	月	3	薬物速度論	静脈注射、経口投与、点滴注射などの基礎理論を講義する。	薬剤部・佐々木	4 講
10	19	月	4	TDM	Therapeutic Drug Monitoring対象薬剤の紹介及び処方における注意点を症例をもとに講義する。	薬剤部・北原	
10	26	月	3	製剤	種々の製剤の特徴に関して講義する。	薬剤部・佐々木	4 講
10	26	月	4	相互作用	薬物の製剤学的、生物薬剤学的、薬理学的な相互作用について講義する。	薬剤部・北原	

東 洋 医 学

責 任 者	氏 名	有賀 純	内 線	7043
	教 室	医科薬理学	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日17:00 - 18:30		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	Kampo (Japanese traditional medicine)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

保険適応の医療用薬剤として漢方薬は30年以上の歴史があり、多くの医師が様々な疾患の治療に漢方薬を使用する。日本の漢方薬は、米国など海外でも治療体系に組み込まれている。診療に必要な和漢薬治療の基本、漢方薬の基礎概念を学ぶ。同時に、漢方薬を含めた薬剤反応（薬効）の個人差（多様性）の遺伝子レベルでの理解を深め、より実践的な「薬物療法の論理」を学び、将来臨床の場において「自家薬籠中の薬（P-drug）」を正しく形成する基盤を作ること为目标とする。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義

3. 教科書・参考書等

プリント資料配布

参考書：入門漢方薬 日本東洋医学会学術教育委員会 南江堂
症例から学ぶ和漢診療薬 寺澤捷年 医学書院
はじめての漢方診療ノート 三瀦忠道 医学書院

4. 成績評価の方法・基準

5. 教員名

非常勤講師： 田原英一（麻生飯塚病院東洋医学センター）
服部智久（ツムラ薬理研究所）
溝口和臣（ツムラ薬理研究所）
麻酔科： 境 徹也
産婦人科： 吉田 敦
医科薬理学： 有賀 純
異 理恵
薬学部天然物化学： 田中 隆
薬学部ゲノム創薬学： 岩田修永

6. 備考（準備学習等）

臨床特論（東洋医学）授業予定（4年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	29	火	1	漢方薬 I	漢方医学の診断・治療 1	田原 英一	2講
			2	漢方薬 II	漢方医学の診断・治療 2	田原 英一	2講
10	20	火	3	漢方薬 III	漢方薬の基礎と臨床	服部 智久	2講
			4	漢方薬 IV	漢方薬はなぜ効くのか	溝口 和臣	2講

10	27	火	3	漢方薬Ⅴ	生薬の有効成分について	薬学部・田中	2講
			4	特別講義	認知症治療薬の開発	薬学部・岩田	2講
11	2	月	1	漢方薬Ⅵ	漢方薬の臨床1(麻酔)	境 徹也	2講
			2	漢方薬Ⅶ	漢方薬の臨床2(産婦人科)	吉田 敦	2講

総合病理学

責任者	氏 名	中 島 正 洋	内 線	7105
	教 室	原研病理	e-mail	moemoe@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日12時から15時		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Clinical pathology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

臨床医としての診療の中で、病因解明や死因究明のため亡くなられた患者さんの剖検の機会があり、病理解剖の結果を踏まえてのCPC(clinico-pathological conference)も多い。また、臨床研修制度のなかで、病理解剖症例のCPCレポートが義務づけられている。本授業の目的は、学生が与えられた病理解剖症例を通して、CPCを体験し、患者さんの病態を総合的に解析し、最終診断に至る過程を学ぶことである。

2. 授業内容

病理学講座(旧第1、第2病理)と原研病理の教員が各1回ずつ担当する。

授業は、病理解剖症例を用いて、CPC方式で行う。

実際の病理解剖症例について、臨床病歴、現症、検査データ、画像などのプレゼンテーション資料から病態を推察し臨床診断を行い、さらに問題点を提起する。

その後、病理解剖所見(肉眼所見・組織所見)を観察(標本検鏡を含む)し、病理診断をまとめ、総合討論する。

3. 成績評価の方法・基準

期末試験は行わず、卒業試験科目として卒業判定時に出席と受講態度とともに評価する。

4. 教員名

第1病理：下川 功、林 洋子

第2病理：福岡順也、安倍邦子、新野大介

原研病理：中島正洋、三浦史郎

5. 備考(準備学習等)

病理学総論・各論の総括的復習

総合病理学授業予定(4年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	24	木	1, 2	剖検症例 1	CPC 形式	原研病理・中島	実 2
10	1	木	1, 2	剖検症例 2	CPC 形式	病理 1・下川	実 2
10	8	木	1, 2	剖検症例 3	CPC 形式	病理 2・福岡	実 1
10	15	木	1, 2	剖検症例 4	CPC 形式	原研病理・三浦	実 2
10	22	木	1, 2	剖検症例 5	CPC 形式	病理 1・林	実 2
10	29	木	1, 2	剖検症例 6	CPC 形式	病理 2・安倍	実 2
11	5	木	1, 2	剖検症例 7	CPC 形式	病理 2・新野	実 2

臨床実習

責任者	氏 名	上谷 雅孝	内 線	7355
	教 室	放射線医学	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午前10時～12時		

対象年次・学期	4年・後期 5年・前期、後期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	5 5 単位
英語名	Clinical Clerkship I (Core clerkship rotation)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

臨床の現場を実際に体験し、これまでに学んできた基礎医学、社会医学および臨床医学の基本的知識を再構築して応用し、患者が抱えている問題を解決する能力を身につける。目標は、①受持ち患者の情報を収集し、診断して治療計画を立てる。②受持ち患者の基本的な身体診察ができる。③基本的手技を学ぶ。である。更に、患者を全人格としてとらえ、対応する能力、医療を支える他職種の役割の理解と協力の重要性をも学びとる。

以下の診療科をローテートする。

第1内科、整形外科・形成外科、麻酔科、救命救急センター、眼科・脳神経外科、消化器内科、精神神経科・耳鼻咽喉科、第2外科、臨床検査医学・原研内科、産科婦人科、皮膚科・泌尿器科、小児科、循環器内科、心臓血管外科・地域病院、第2内科、放射線科・熱研内科、第1外科、総合病理学・総合診療科・社会医学

2. 授業内容（講義・実習項目）

診療科により異なる。臨床実習要項を参照。

3. 教科書、参考書等

適宜。

4. 成績評価の方法・基準

各科で、出席状況、実習状況等を総合的に評価する。Advanced OSCEの成績は臨床実習の成績の一部となる。

5. 教員名

臨床実習要項を参照。

臨床推論PBL

責任者	氏 名	西田 教行	内 線	7057
	教 室	感染分子解析学	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日午後4時30分～午後5時30分		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
英語名	Problem-based learning		

1. 臨床推論PBLとは

Problem-based learning (PBL)は、4年次の学生に対し臨床各科ローテーションが始まる前に、課題探索・自己問題解決能力のトレーニングとして、平成16年度から導入することになった教育方法です。

医学部（医学科）学生はこの時期までは、主に座学により医学的知識の蓄積に努めてきましたが、実際の臨床医療を学ぶためには自主的問題解決型の思考、学習が必要になります。そこで、臨床実習に入る前に、あるテーマに対して調査、討論を重ねて解答、解決法を自ら見出す学習としてPBLを行います。

2. 授業のねらい・方法・到達目標

- (1) 与えられた知識の記憶にとどまらず、必要な知識を自ら獲得する方法と習慣を身に付ける。
- (2) 臨床に即した問題解決が行えるよう、病態の基礎医学的理解から診断・治療までを症例に基づいて一貫して学ぶことにより、臨床実習に必要な基本的知識と考え方を習得する。
- (3) グループ学習を通じてコミュニケーション能力を身に付け、チーム医療の基本を学ぶ。

3. 成績評価の方法・基準

出席の状況、討論への参加状況をもとに評価する。

4. カリキュラム

ローテーション表及び各科時間割は、別途手引きとして配付する。

5. 備考（準備学習等）

医 学 ゼ ミ

責任者	氏 名	西田 教行	内 線	7057
	教 室	感染分子解析学	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日午後4時30分～午後5時30分		

対象年次・学期	1年：前期、後期 2年：前期、後期 3年：前期 4年：前期	講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修	単位数	前期、後期各1
英語名	Small group medical seminar		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。AO学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

2. 授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教官、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

3. 教科書、参考書等

担当教員が提示する。

4. 成績評価の方法・基準

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

5. 指導教員など

医学科、熱帯医学研究所、先導生命支援センター教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

平成27年度「医学ゼミ」開講テーマ一覧(4年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ (サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	受講可能 人数	開講時間	場所	評価方法	備考
生化学	伊藤 敬	論文から学ぶ生化学	学習意欲のある2年生を対象にした生化学への入門科目である。生化学に関連する論文を読み、英語力を養うとともに生化学的な研究を理解し発表する力を養う。	教官が毎回最近の生化学に関する論文を紹介しその内容を理解し質疑応答をする。加えて当番になった学生は、あらかじめ自学した論文を紹介しその内容について全員で議論し、理解を深める。	2年前期 2年後期 3年前期 4年前期	7名	日曜日午前10:30時	医学部基礎棟6階生化学教室カンファレンス室	出席、発表内容など	
医科薬理学	有賀 純 中川 慎介 巽 理恵 畑山 実	最新の論文から探る医学生物学研究の潮流	トップジャーナルに掲載された脳神経、血管、幹細胞に関する論文の学術的背景や意義を理解して、最新の研究動向を把握し、今後の研究戦略を考える。	Nature, Science, Cellなどの国際科学誌の最新号に掲載された文献を毎週1報ずつ紹介する。発表はパワーポイントなどを使用し、論文に記載されている実験内容や結果を解説する形式で行う。なお、論文の選定から読解、発表まで教官がマンツーマンで指導する。期間中に2回の発表を予定している。	2年前期 3年前期 4年前期	5名	金曜日1校時	薬理学教室セミナー室	出席内容、発表内容を考慮して評価する。	
探索病理(病理1)	下川 功 森 亮一 林 洋子 Park Seongjoon	Guide of NUSM	本学医学部の歴史、現状を認識し、未来を描く。	本学医学部を紹介するホームページ、ビデオクリップを製作する。	2年前期 3年前期 4年前期	10名	金曜日1校時	第一病理、医局図書室	作品の創造性	開講時間以外に個人、グループ活動を必要とする。
免疫学	由井 克之	論文から学ぶ免疫学	重要な原著論文に触れることにより、免疫学の方法論とその根拠にあるアイデアに対する理解を深める。免疫学の講義を履修した3、4年生が主要な対象であるが、意欲ある2年生も歓迎する。	免疫学関連の主要な論文(英文)の抄読会を行う。学生があらかじめ自学した論文の内容を紹介し、それについて全員で議論し、理解を深める。論文の選択、読み方などは適宜指導する。	2年前期 3年前期 4年前期	10名	金曜日1校時	免疫学分野集会室	発表内容、参加態度、レポート、出欠を総合的に評価	
感染分子	西田 教行	プリオン学	プリオンに関して深く掘り下げる。論文読解を中心に行う。	原著論文を読むことで、科学的批判力を養う。レポートの書き方などの指導を行う。	2年前期 3年前期 4年前期	8名	金曜日1校時	基礎棟8階集会室	出席およびレポート	
病態分子疫学	ブニーター・ゴーチヤン	成書で読む熱帯医学(ウイルス性胃腸炎の世界)	日本の医学生と欧米(に限らないが)の医学生の違いの一つは、reading assignmentの量である。英語が共通の媒体となるグローバルヘルス・熱帯医学の分野に関心のある学生を対象に、この分野の標準的教科書のone chapter(viral gastroenteritis)を読むことを通して、教科書の読み方(critical reading skill)を習得する。	熱帯医学の成書として定評のある英国のManson's Tropical Diseasesおよび米国のHunter's Tropical Medicine and Emerging Infectious Diseasesのviral gastroenteritisの章を学生が分担して読むこと(翻訳することではない)により、①要点を説明すること、②教科書がどのような文獻的エビデンスに基づいて記述されているか、また、③著者がどのようなメッセージを伝えようとしているかを理解する。	2年前期 3年前期 4年前期	1~6名	金曜日1校時	分子疫学	出席・発表・レポートで総合的に評価する。	熱帯医学研究医コースの学生、あるいはこの分野に興味のある学生を対象。本ゼミはすべて英語で行う。
公衆衛生	青柳 潔	論文から学ぶ公衆衛生学	文献を通して医学の社会性について学ぶ	公衆衛生学に関連した論文を各自が紹介・発表し、討論する。	2年前期 3年前期 4年前期	10名	金曜日1校時	公衆衛生学資料室	積極性、レポート	
法医学	山本 琢磨	異状死とは? 死者からの伝言	法医学教室ではさまざまな死と遭遇する。事件事故であれ病気であれ、死には必ず原因があり、生には常にその原因が付随している。各々の症例についてそんな観点から考え、異状死(突然死)について医療人としての理解を深めてもらう。	各症例の事件発生即報告書、死体検案書、解剖検査記録などを参考にして、「なぜ亡くなったのか」、さらには「防ぐことはできたのか」を考える。適宜、論文検討を加え、最終的に症例報告として報告書をまとめる。	4年前期	10名	金曜日5校時	基礎棟6階法医学教室大学院セミナー室	総合的に評価する	
第一内科	川上 純	臨床内科のエッセンス	Early Bird lesson(EBL)への参加を行ない、臨床の基本的な考え方を学ぶ。	当科では臨床実習生、初期研修医に対して行なわれるEarly Bird lesson(EBL)へ参加する。EBLは、鑑別診断・病態の説明や標準的治療の解説から、最新のトピックスまでの内容を含み、参加を通じて実際の臨床の考え方を学ぶ。	3年前期 4年前期	10名	火曜日・水曜日 午前7時45分~8時30分	本館9階ゼミ室(906号室)	出席やレポートによる総合評価	
第二内科	宮崎 泰可	内科診療実践編	教科書を読むだけではわからない、内科臨床医に求められる実践的な判断力、手技を身につける。	模擬病歴、実際の画像、シミュレーターなどを用いて実践的な内科の知識と手技の習得を目指す。	4年前期	10名	金曜日1校時	病院12階カンファレンス室集合、必要に応じてシミュレーションセンターへ移動。	出席状況、レポート、討論への参加具合の評価。	
消化器内科	竹島 史直	GUT CLUB	様々な腸疾患の臨床をより深く学習する。	入院、外来の症例検討を行うことで腸疾患に対する興味を喚起するとともに、それに関する最新の英文臨床研究やUp to Dateの抄読会を通じて理解を深める。	4年前期	6名	金曜日16時30分	消化器内科医局	出席や発表内容より総合的に評価	
循環器内科	前村 浩二	心電図道場(実地から学ぶ心電図判読)	心電図に対する苦手意識をなくし、おもしろく判読ができるようになることをめざす。	講義で学んだだけでは、心電図判読に苦手意識を持っている学生が多い。心電図判読のコツは最初に心電図判読の作法を理解した上で、多くの症例の心電図を自分で読んでみることである。本ゼミでは、さまざまな症例の心電図を自分で実際に読んでもらい、それを添削しながら判読のコツをつかんでもらう。後半では症例に即してクイズ形式で読んでもらう。	4年前期	10名	金曜日5校時	病院本館9階ゼミナール室(906)	出席率、討論参加度	
精神神経科	小澤 寛樹	医療経済・政策を考える	医療従事者に必要な経済的素養、政策動向などを学ぶ	本ゼミでは参加者個々による研究発表や医療業界・医療に関する政策担当者などを招いて講演を聞く事などを通じて、医療従事者として必要なビジネス・経営に関する素養を育成する。	2年前期 3年前期 4年前期	10名程度	原則として水曜日17時開始。日程は初回時に参加する人と協議して決定	精神科外来62番診察室	ディスカッション等へ参加意欲の評価50%、各回の提出レポート・最終回後の提出課題の内容50%	参加希望者が10名を超過する場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。
精神神経科	黒滝 直弘	バトグラフィーと司法精神医学を究める	バトグラフィー(病跡学)とは、過去の偉人等を対象に精神医学・心理学等の視点からその生涯での疾病の意義を分析する。この手法は司法精神医学等にも応用される。本ゼミではこれを学ぶ。	バトグラフィーについて、まず基礎的な知識を学ぶ。その上で参加者一人(又はグループ)毎に、実際に特定の人物(過去だけでなく現代人や事件等も含め)を対象にして、バトグラフィーによる分析を実習する。映像作品等での視覚的な学習も随時実施する。	2年前期 3年前期 4年前期	10名程度	月曜日又は水曜日18時以降	精神科外来62番診察室	①ゼミへの積極的な参加姿勢や自主性 ②講義終了後に提出してもらった課題の成果以上を総合的に判断する	参加希望者が10名を超過する場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。

教室	責任者名	ゼミテーマ (サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	受講可能 人数	開講時間	場所	評価方法	備考
第一外科 (腫瘍外科)	大畠 雅之 日高 重和	鏡視下手術入門 ～応用	20世紀後半から急速に進歩した鏡視下手術は外科手術の概念を変え、現在でもその装置、手術手技は進歩し続けている。最先端の技術であってもその基本手技は以前の開腹手術と同様に非常に重要である。鏡視下手術の原理、基本操作から応用をトレーニング装置で学びながら、鏡視下手術への理解を深めてもらう。	鏡視下手術の基礎を学んだ後にドライボックスを用いて実際の機材の操作を理解し、次第に高度なテクニックに移行する。その後シミュレーターを用いて虫垂切除術や胆嚢摘出術に挑戦する。	3年前期 4年前期	4名	水曜日5校時	腫瘍外科医局	ゼミ終了後のレポート	
第二外科 (移植・消化器外科)	江口 晋	Nagasaki Surgical Club 一外科の歴史から手術理論、手術手技、さらには国試対策まで	外科の入門編から実技さらには国試対策まで幅広く、週替りの講師陣による座談会形式のゼミです。外科実技や英会話も取り入れ、実践的な能力アップも図りたいと思います。	1. 外科の歴史(長崎の外科から世界の外科の歴史まで) 2. 外科の基本手技(縫合、鏡視下手術実技などの実技を含みます) 3. 診察、学会発表に役立つ英会話 4. 外科におけるEBM(論文の見方、読み方教えます) 5. 消化管外科の温故知新:ピルロートって知ってる? 6. 国試に出る外科学(2年生にも分かり易く解説します) 7. 移植についてともに語ろう 8. 乳腺外科のトピックス 9. 小児外科医が未来の子供に出来ること 10. 未来の外科学(ロボット手術、再生医療) 11. 先輩外科医から聞く深い話(座談会形式で熱く語り合います)	2年前期 3年前期 4年前期	10名	金曜日5校時	移植・消化器外科医局(第二カンファ室):医局受付で問い合わせてください。	出席を重要視する。ディスカッション内容、フリートーク形式ですので、レポート・試験などはありません。	講義内容、順番は予定であり若干の変更があり得ます。
泌尿器科	宮田 康好	マンガで学ぶ“泌尿器科ってなんだ?”	本ゼミを初歩の泌尿器科学入門と位置づけ、マンガという身近な教材を用いて泌尿器科学の受け持つ領域と特徴を知り、さらに発展させて現代医学・医療の基本部分の理解へもつなげていく。	泌尿生殖器の解剖、機能および疾患の特徴などを直観的に捉えられるように、主にマンガやビデオ等のメディアを用いて、学生自身が司会進行する形で発表を行う。これに適宜教官からの補足をを行う。また、簡単なプレゼンテーションスキルやアイデア抽出法についても学ぶ。	2年前期 3年前期 4年前期	10名	金曜日1校時	泌尿器科医局	出席率、討論への参加態度、発表、レポートなど	
臨床検査医学	柳原 克紀	分子診断	分子診断を学ぶ	臨床微生物や腫瘍の分子診断についての文献を読む。学生は提供された文献について学習し、発表する。	3年前期 4年前期	8名	隔週月曜 18:00-19:00	臨床検査医学医局(12階)	積極的な参加、文献の理解、発表を評価する。	
臨床感染症学・感染制御教育センター	泉川 公一	感染症道場 ～見えない敵との戦い～	Ebola出血熱や薬剤耐性微生物の脅威に対して人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物vs生き物の独特な医療においてヒトが勝者になれるか、その可能性を探る。	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならびに先端的な研究について学び、ヒトが微生物をどのように攻略していくのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のbridgingとは何かを習得する。	2年前期 3年前期 4年前期	各学年3名ずつ	原則として月曜5校時	長崎大学病院	出席状況、発表などの総合評価	
地域医療学	前田 隆浩	地域医療学入門	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	・地域医療に関する論文(邦文・欧文)や記事、教科書、書籍を集めまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる、地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。	1年前期 2年前期 3年前期 4年前期	6名	・水曜日夕方16時半～18時(7回程度) ・月一回程度18時30分～20時30分(地域医療研究会・曜日不定)(4回程度) 上記2つ全てに出席が必	地域医療学分野セミナー室(医学部基礎棟6階)ボンベ会館(予定)	出席とレポートとゼミ受講態度	
へき地病院再生支援・教育機構	調 漸	離島・へき地医療の達人から学ぶ	へき地や離島医療の現状を学び、これからの地域医療について考える	離島・へき地の第一線で活躍する医師を中心に、地域医療に密接に関係する家庭医や、病院総合医、プライドクター等も講師として招き、実情について講演して頂き、地域医療という漠然としたイメージをリアルな物として認識する。ゼミの後半には、夏合宿や、実際にへき地や離島医療を体験する離島ツアーも2泊3日程度で開催する予定である。そして、最終日には、これらのゼミで学んだ事や、これからの地域医療について、各自発表を行う。	2年後期 3年前期 4年前期	10名	金曜日6校時	医学部基礎棟 1階 視聴覚教室1	出席、講義のレポート、最終日に実施する地域医療に関するプレゼンテーション等で総合的に判定する。	地域医療、へき地・離島医療に関心のある一般枠の学生の受講も歓迎する。

アドバンストリサーチセミナー

責任者	氏 名	西田 教行	内 線	7057
	教 室	感染分子解析学	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日午後4時30分～午後5時30分		
対象年次・学期		4年前・後期, 5年前期・後期、 6年前期	講義形態	講義・実習
必修・選択		必修（研究医コース）	単位数	各 1 単位
英語名		Advanced research seminar		

1. 授業のねらい・目標

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。プレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで修得した基礎医学の基礎的学力をさらに発展させる。

2. 配属教室の選択方法

配属教室は、原則として、リサーチセミナーの配属教室とするが、変更を希望する場合は、教務委員会にて審議のうえ、変更を許可することがある。

3. 活動内容・履修方法等

配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

なお、5年次、6年次の履修については、配属教室と相談のうえ、5年次の2単位は4年次での修得可能とし、6年次前期の1単位は、5年次での修得または論文作成による修得を可能とする。

4. 成績評価の方法・基準

配属教室での活動、研究成果に基づき担当教員が100点満点で評価する。

5. 指導教員など

医学部基礎系教室等の教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

English Skills for Fourth Year Medical Students

Instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
In this course, students will be guided in their selection of specific medical cases, disease trends, other local and global health issues on which to present individually and in groups to their peers. Small group discussion to further critical thinking and communication skills will form an integral part of the course.	
Required Textbooks	
Class materials will be made available on the English Section's website, NU-minds.	
Topics	
1	Introduction of the course and its materials; mini-talk: "How to Read to Maximize Learning"
2	First topic - how to read, how to explore, how to discuss; deciding the groups
3	First group discussion; first report
4	Short presentations + Q&A practice
5	Second topic; second group discussion
6	Second report; evaluating other groups' reports
7	Second Short Presentation followed by Q&A
8	Third topic; second group discussion
9	Third report; evaluating other groups' reports
10	Third Short Presentation followed by Q&A
11	Fourth topic; second group discussion
12	Fourth report; evaluating other groups' reports
13	Fourth Short Presentation followed by Q&A + Deciding on final project
14	Final group discussion + reviewing and preparing the final project
15	Final Poster sessions
Course work and Evaluation	
Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, quizzes, group project, written work, and in-class and on-line participation. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.	
<i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i>	